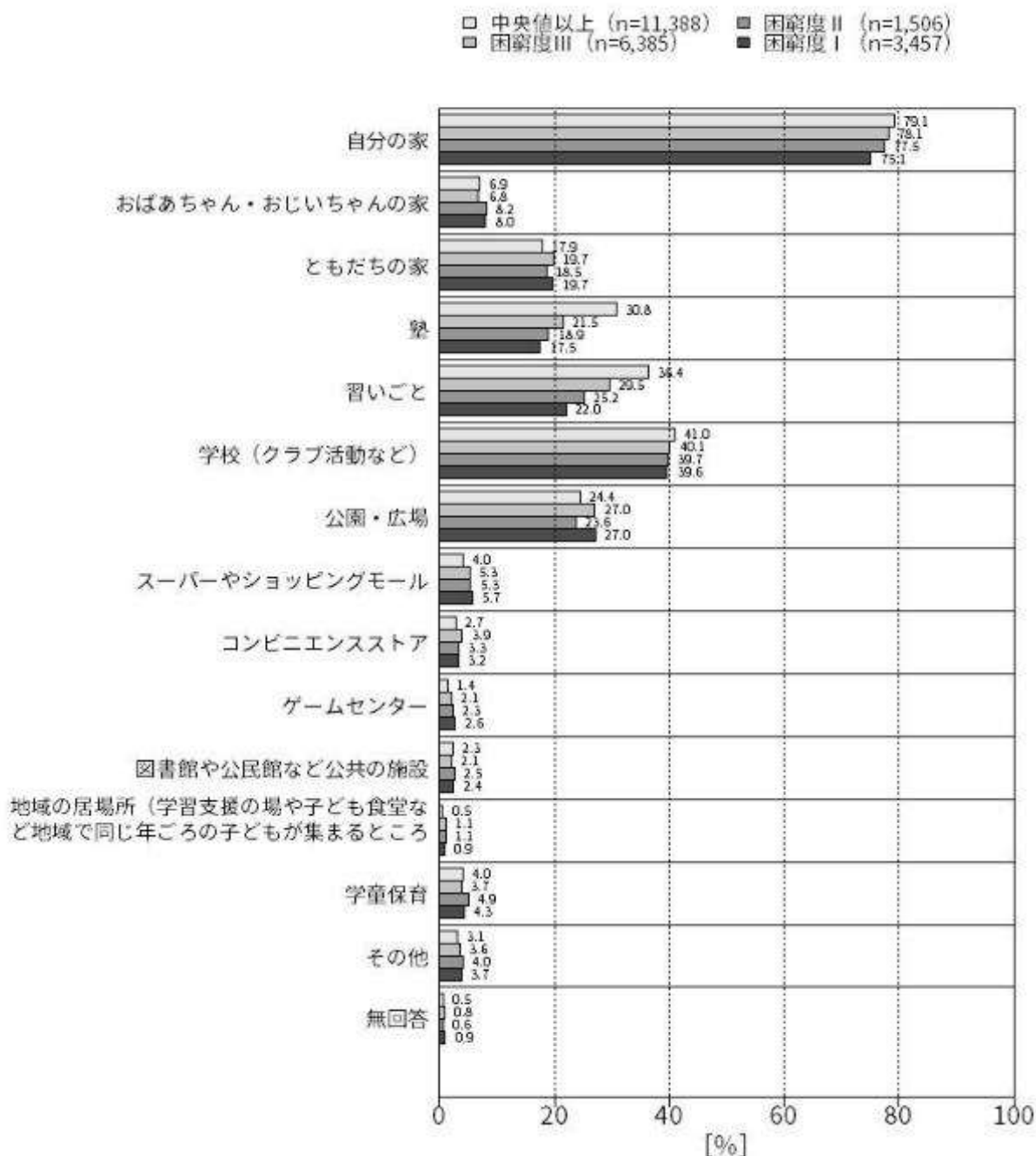


3-5. 対人関係

困窮度別に見た、放課後に過ごす場所（子ども票 問13）

<大阪市 24 区>



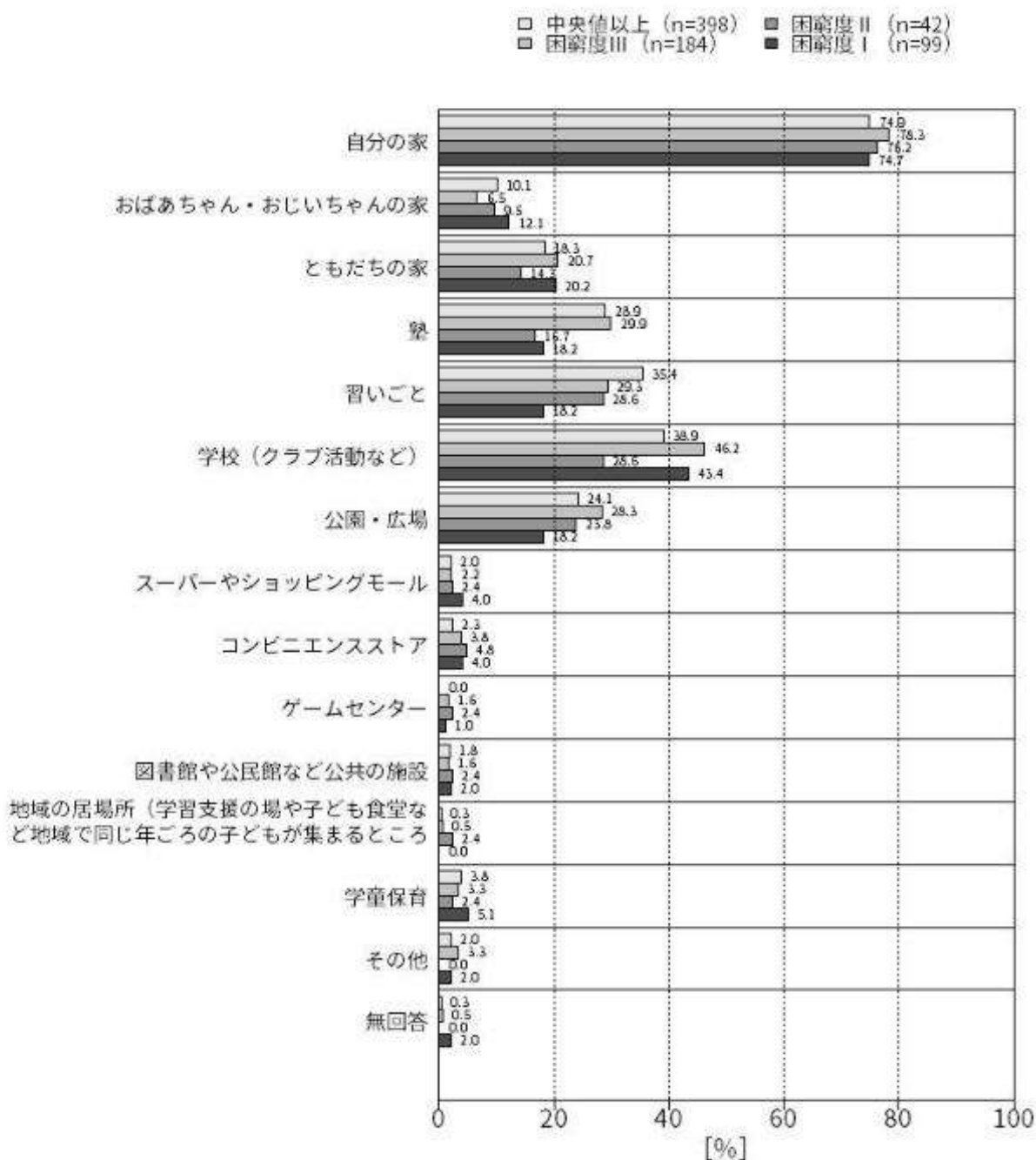
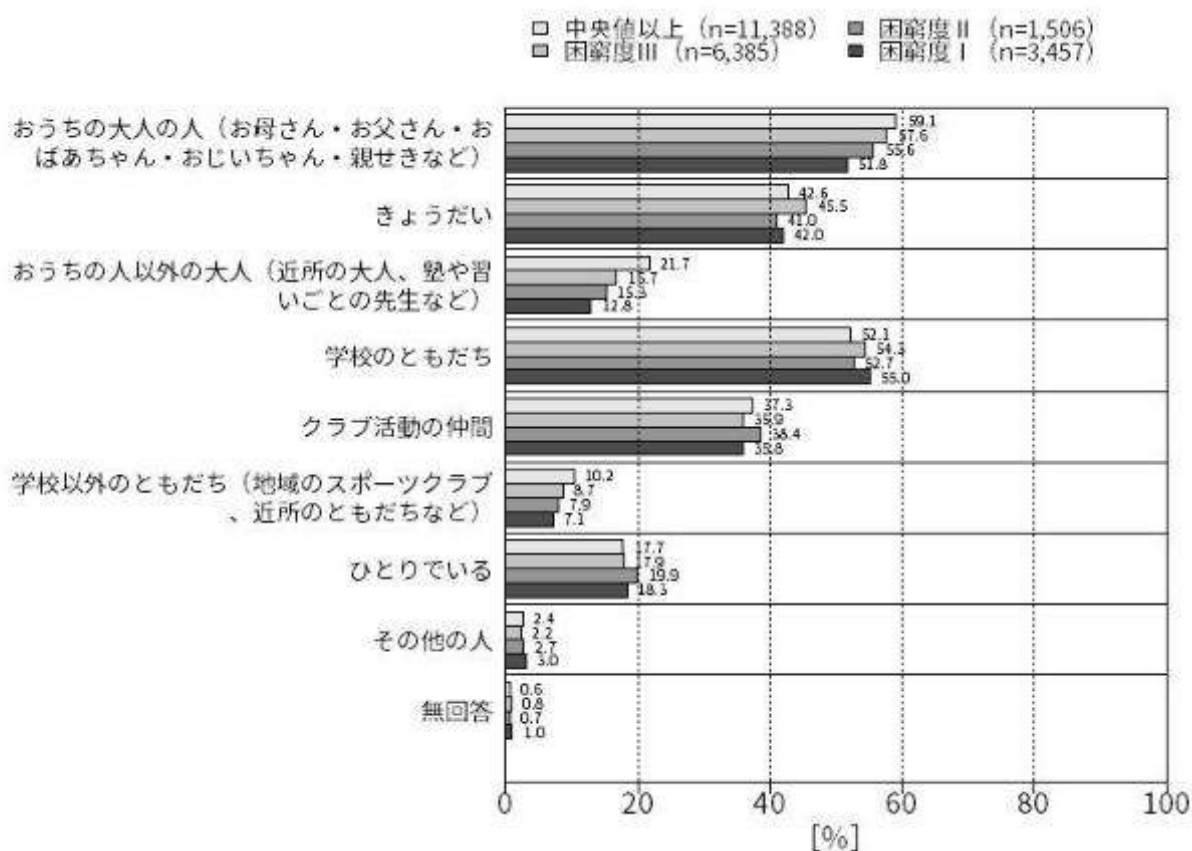


図 284. 困窮度別に見た、放課後に過ごす場所

困窮度別に子どもが放課後に過ごす場所を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「スーパーやショッピングモール」4.0%（中央値以上群に対して、2.0倍）、「コンビニエンスストア」4.0%（1.7倍）、「学童保育」5.1%（1.3倍）、となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。また、中央値以上群では「習いごと」35.4%（困窮度Ⅰ群に対して、1.9倍）、「塾」28.9%（1.6倍）、「公園・広場」24.1%（1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人（子ども票 問 12）

<大阪市 24 区>



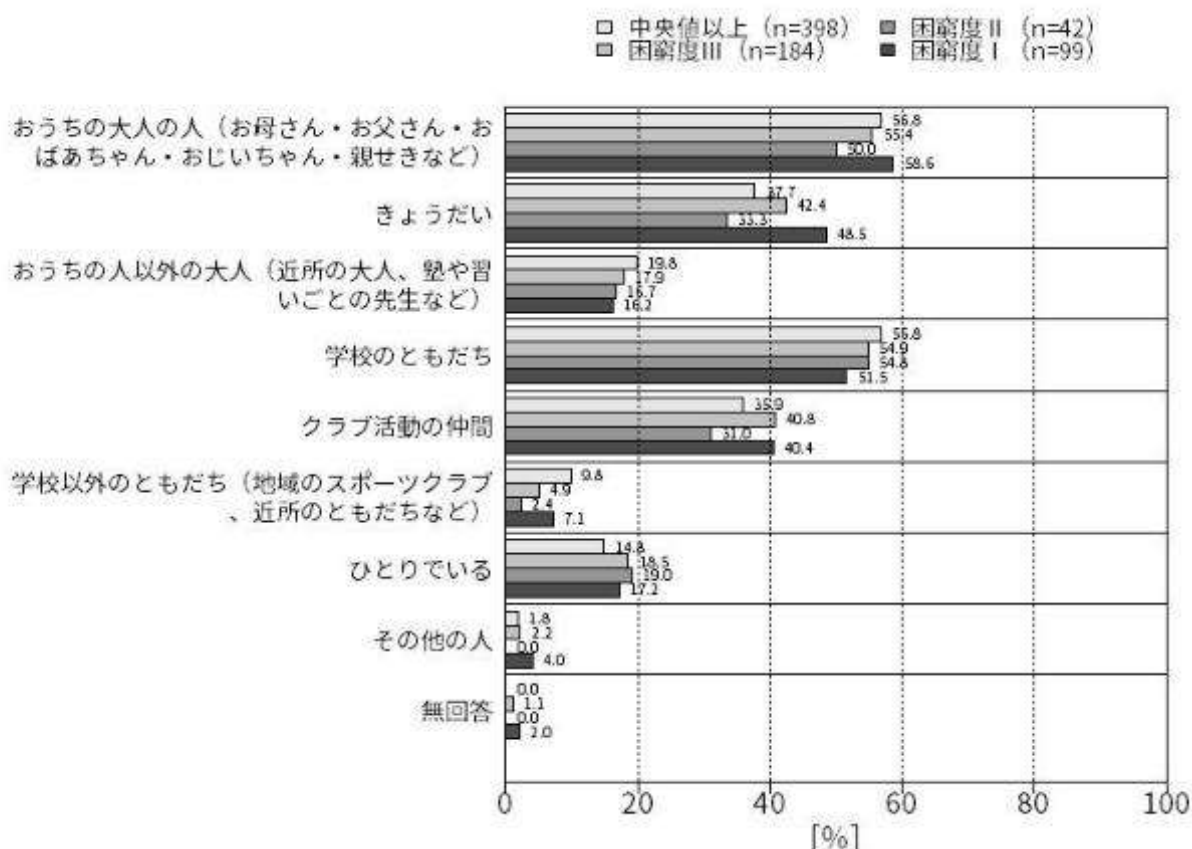
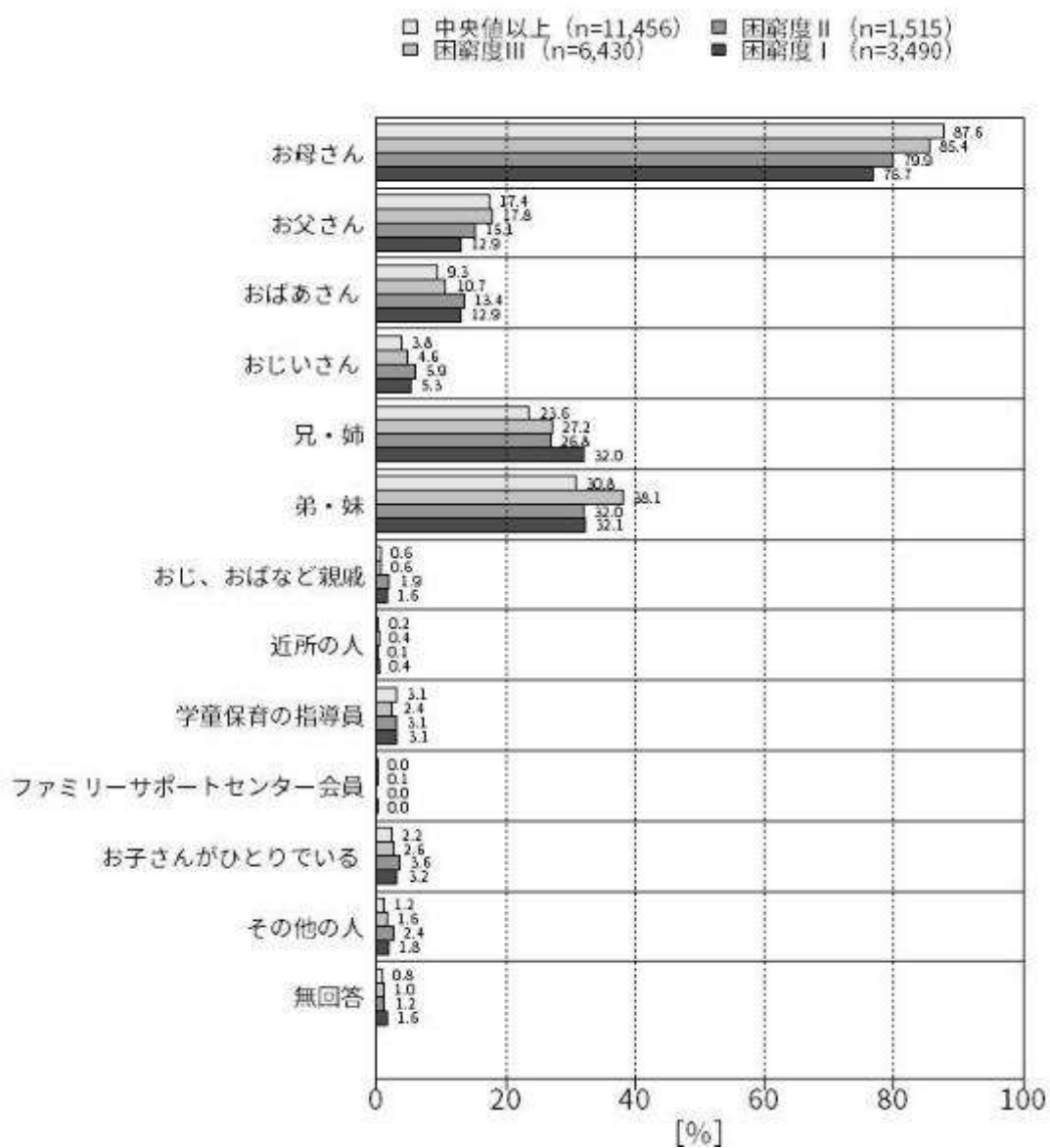


図 285. 困窮度別に見た、放課後一緒に過ごす人

困窮度別に子どもが放課後一緒に過ごす人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「その他の人」4%（中央値以上群に対して、2.2倍）、「きょうだい」48.5%（1.3倍）、「ひとりである」17.2%（1.2倍）と高く、中央値以上群では「学校以外のともだち（地域のスポーツクラブ、近所のともだちなど）」9.8%（困窮度Ⅰ群に対して、1.4倍）、「おうちの人以外の大人（近所の大人、塾や習いごとの先生など）」19.8%（1.2倍）が高かった。

困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人（保護者票 問 11）

<大阪市 24 区>



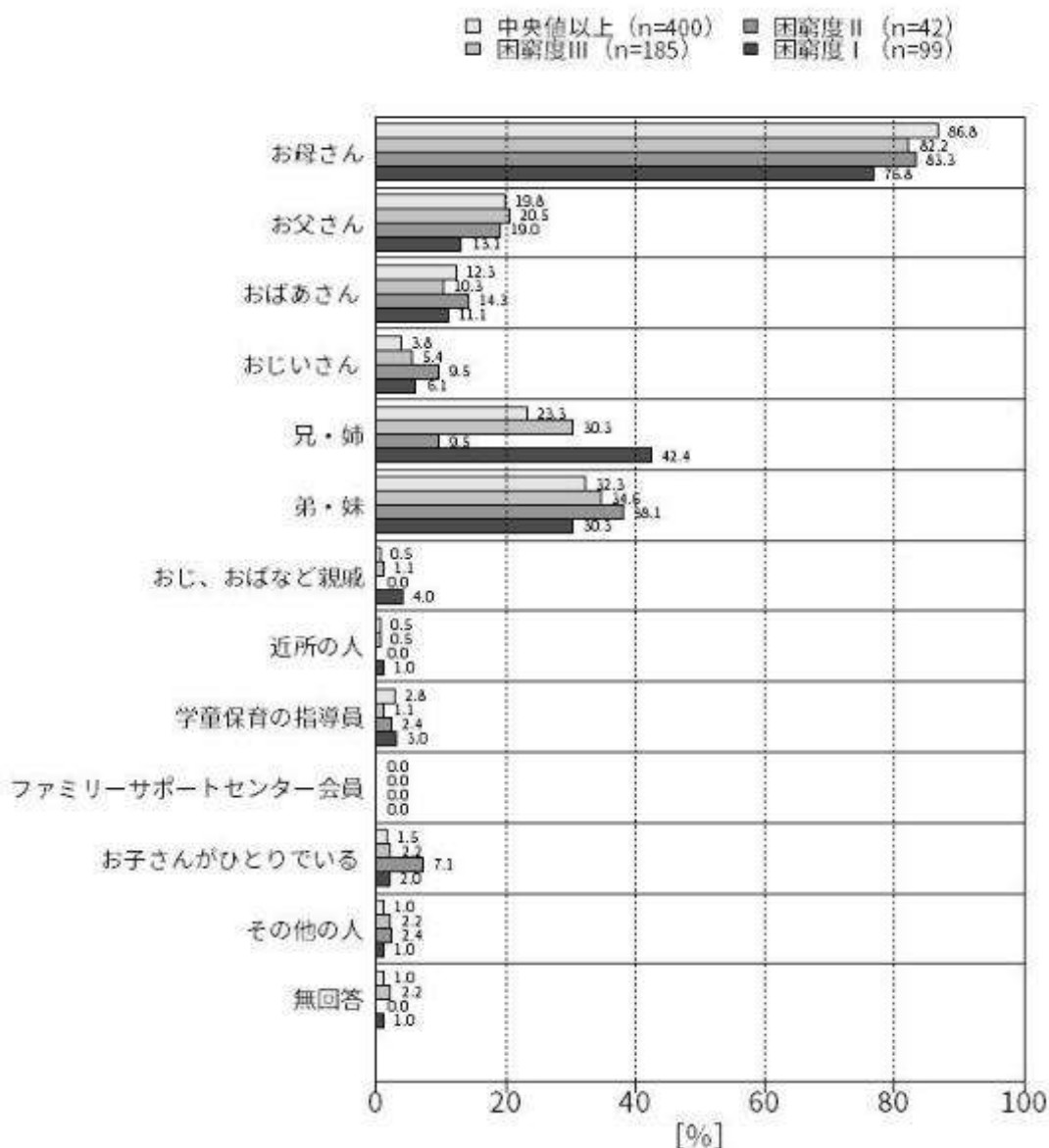
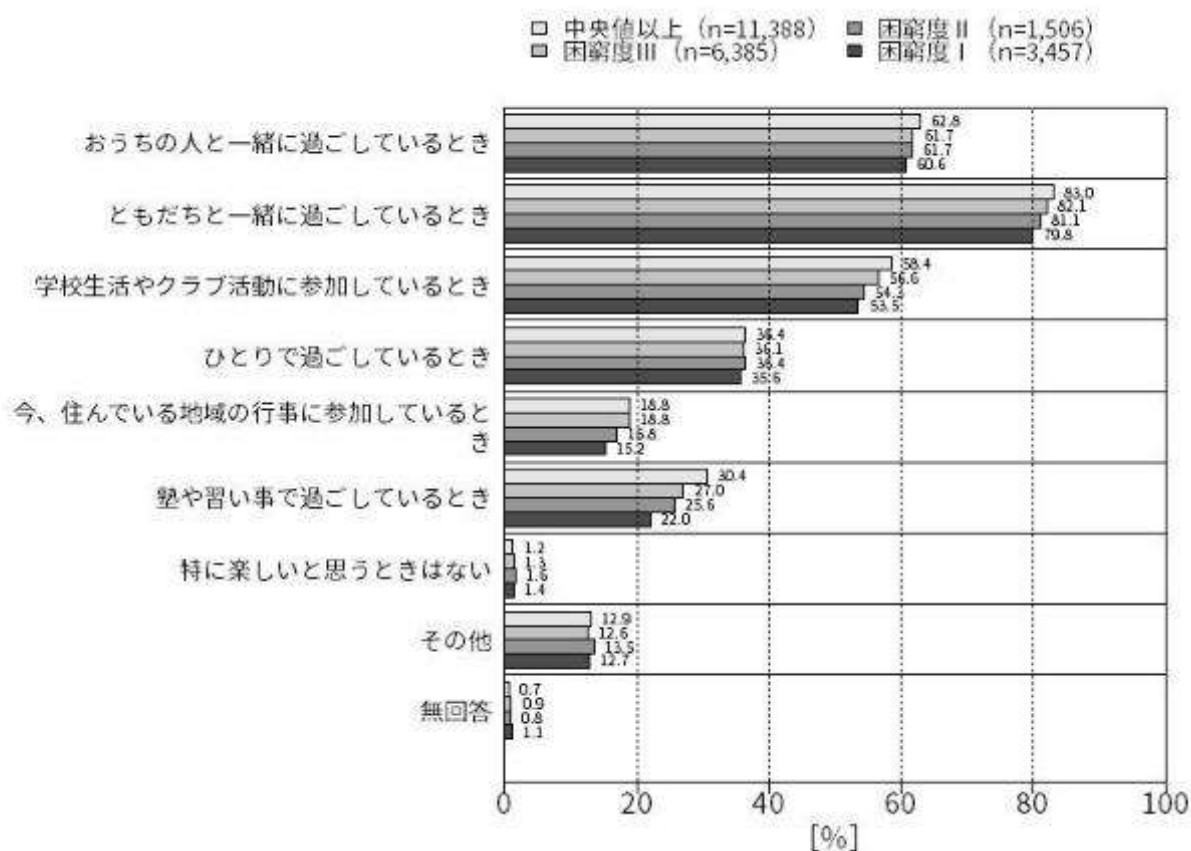


図 286. 困窮度別に見た、子どもと過ごす時間が長い人

困窮度別に保護者が放課後に子どもと過ごす時間が長い人を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「おじ、おばなど親戚」4.0%（中央値以上群に対して、8.0倍）、「近所の人」1.0%（2倍）、「兄・姉」42.4%（1.8倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。

困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと（子ども票 問 11）

<大阪市 24 区>



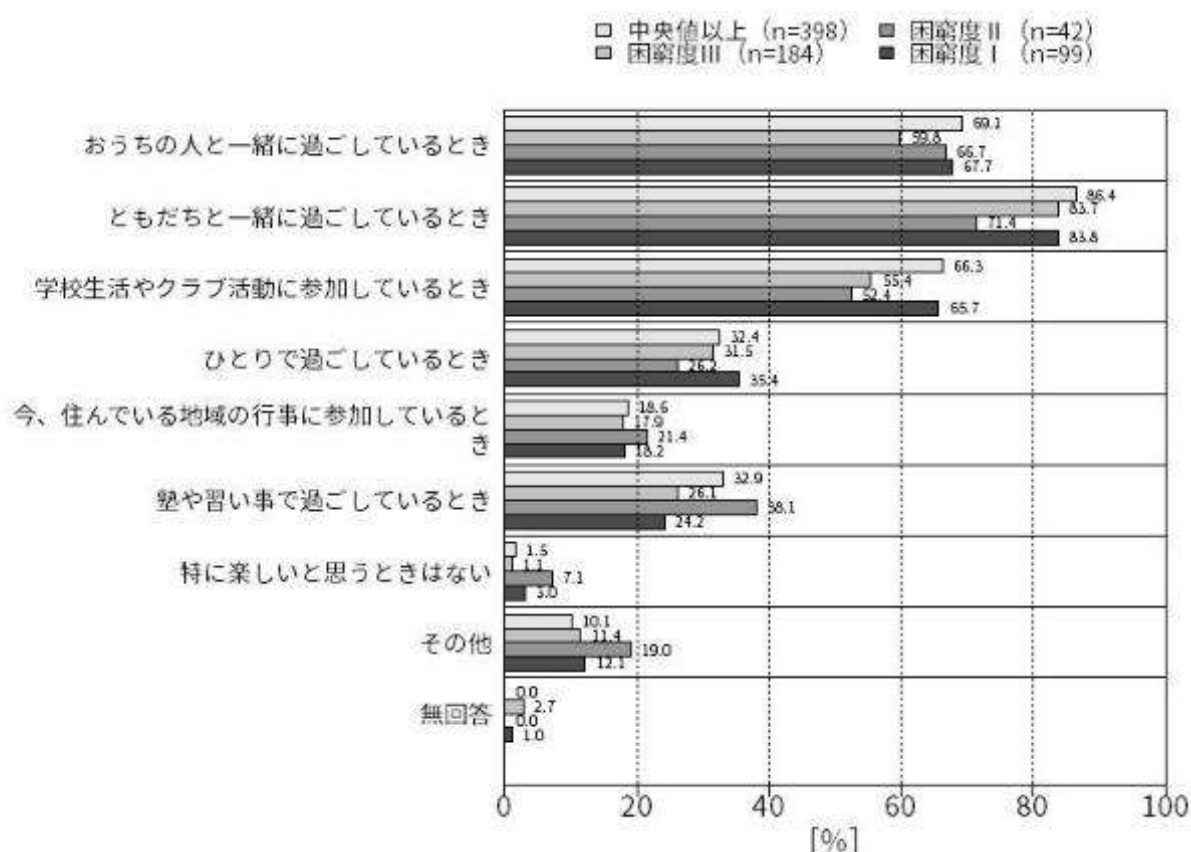
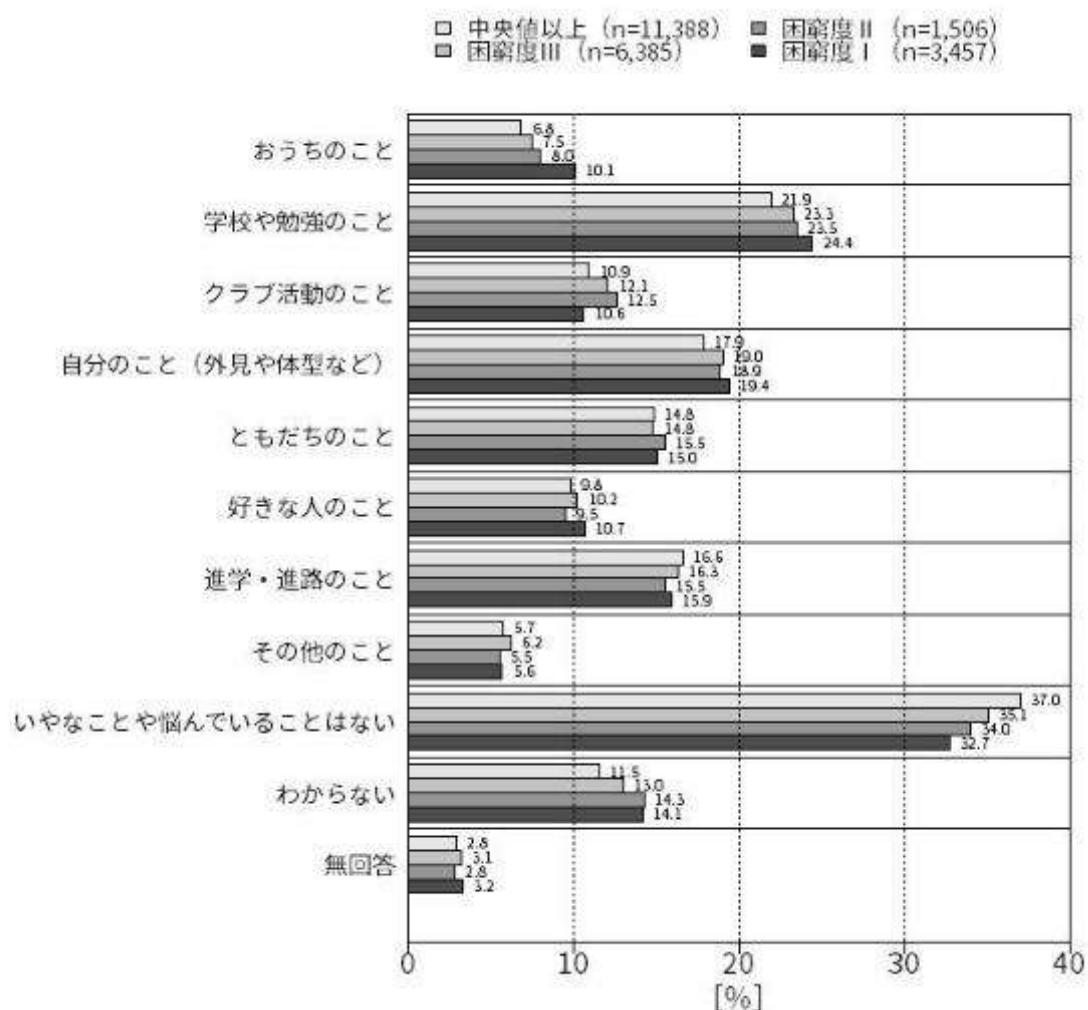


図 287. 困窮度別に見た、毎日の生活で楽しいこと

困窮度別に子どもが毎日の生活で楽しいことを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「特に楽しいと思うときはない」3.0%（中央値以上群に対して、2.0倍）が高かった。

困窮度別に見た、悩んでいること（子ども票 問 21）

<大阪市 24 区>



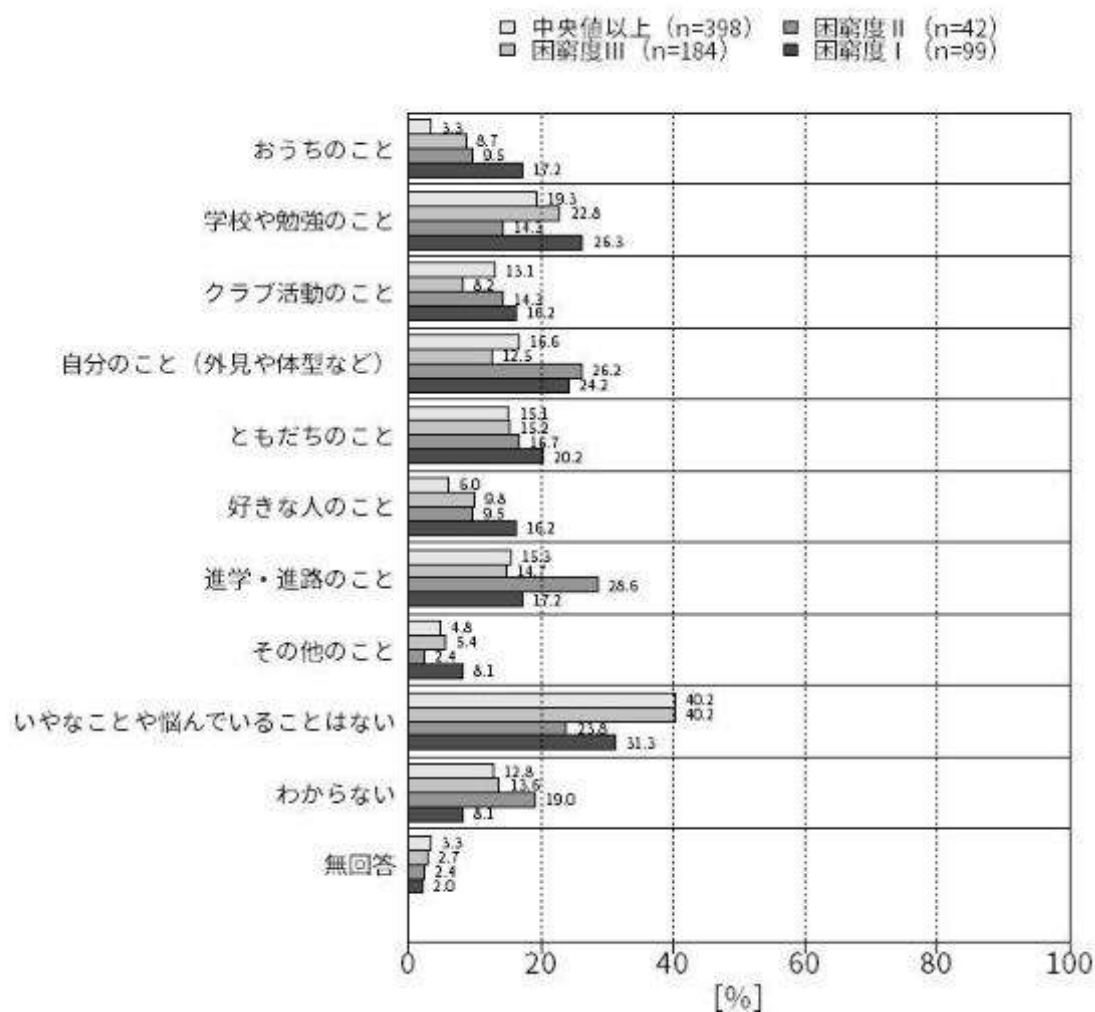
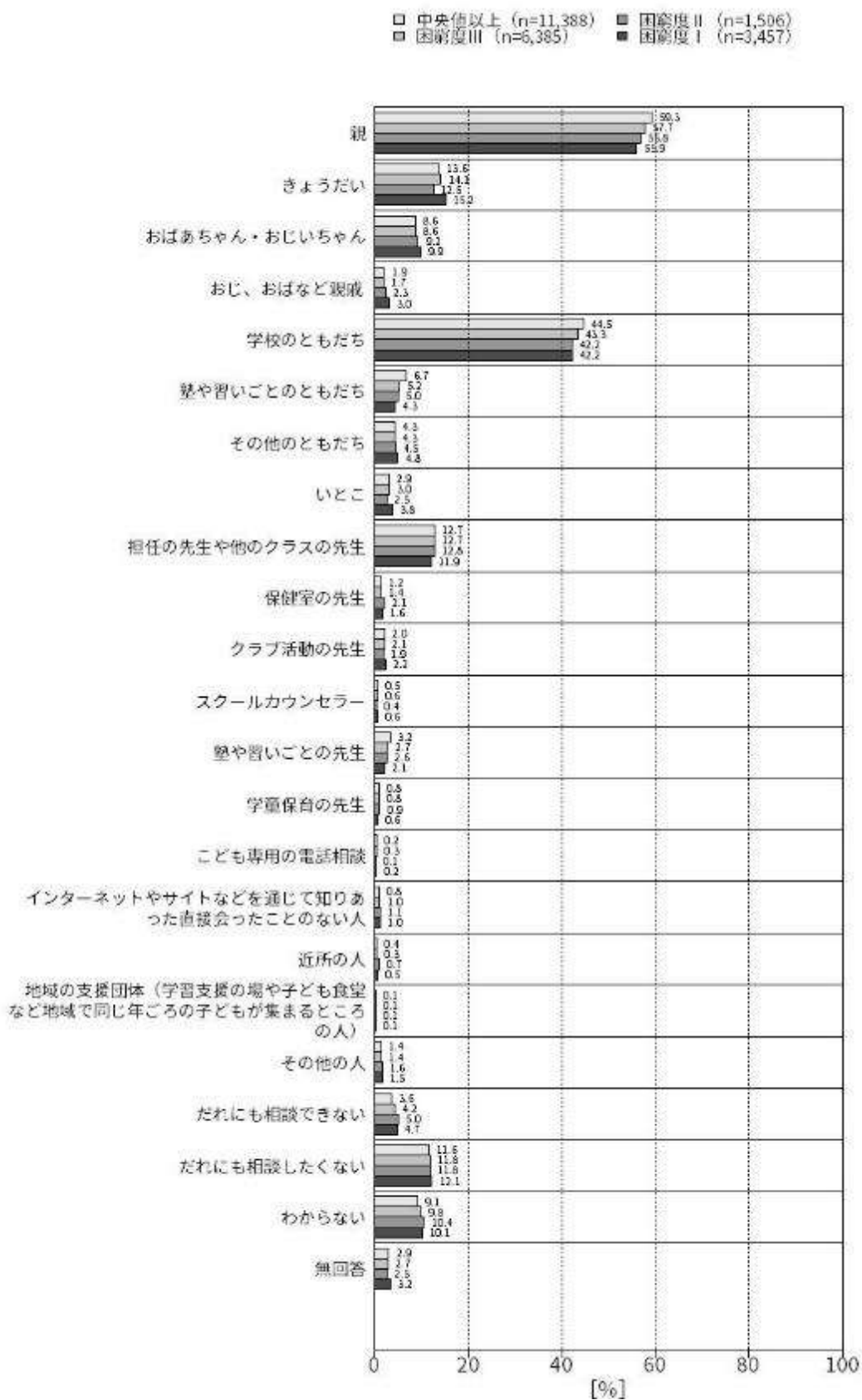


図 288. 困窮度別に見た、悩んでいること

困窮度別に子どもが悩んでいることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目すると、困窮度Ⅰ群では、「おうちのこと」17.2%（中央値以上群に対して、5.2倍）、「好きな人のこと」16.2%（2.7倍）、「その他のこと」8.1%（1.7倍）が高く、中央値以上群では「わからない」11.5%（困窮度Ⅰ群に対して、1.6倍）、「いやなことや悩んでいることはない」40.2%（1.3倍）が高かった。

困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手（子ども票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

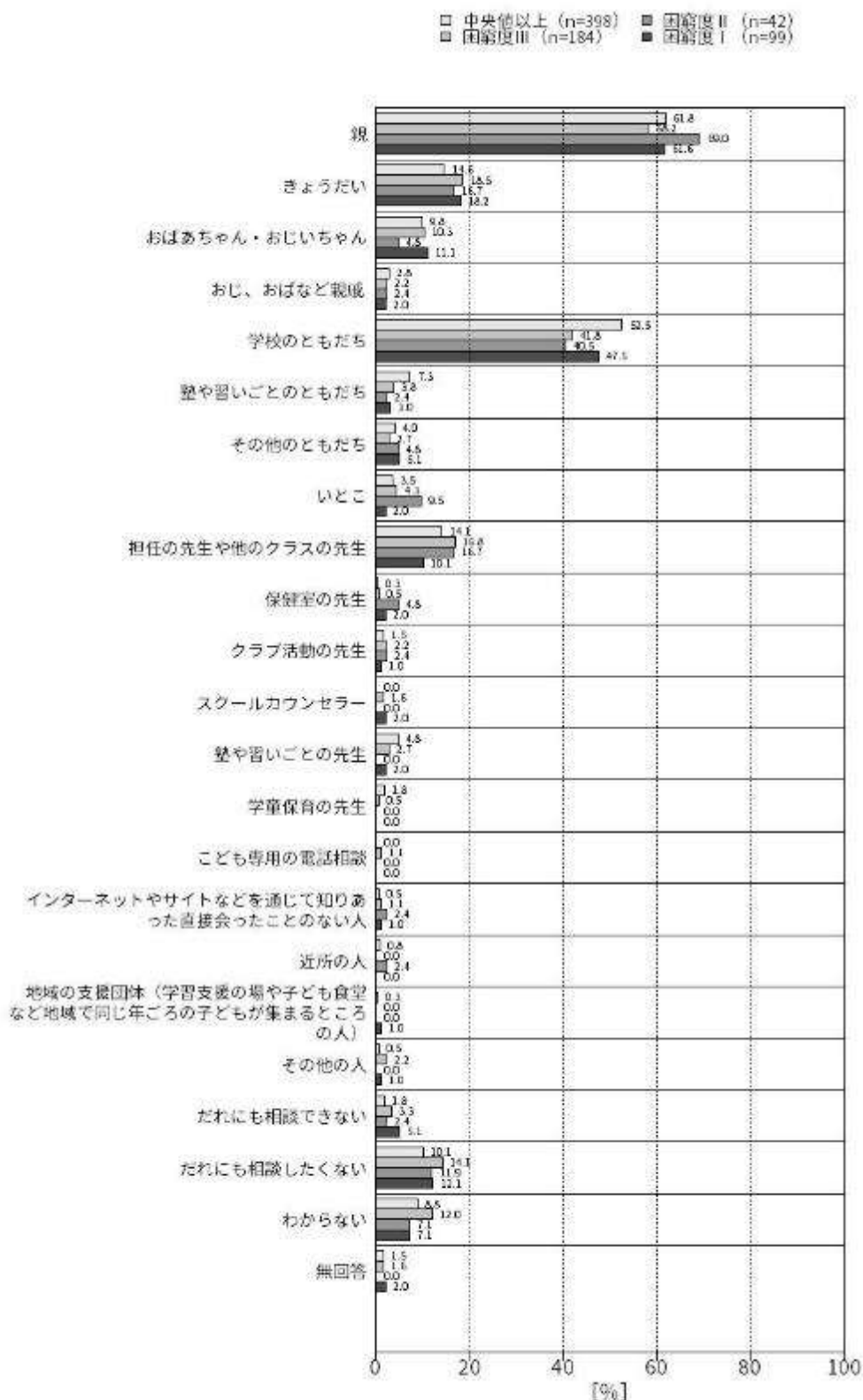
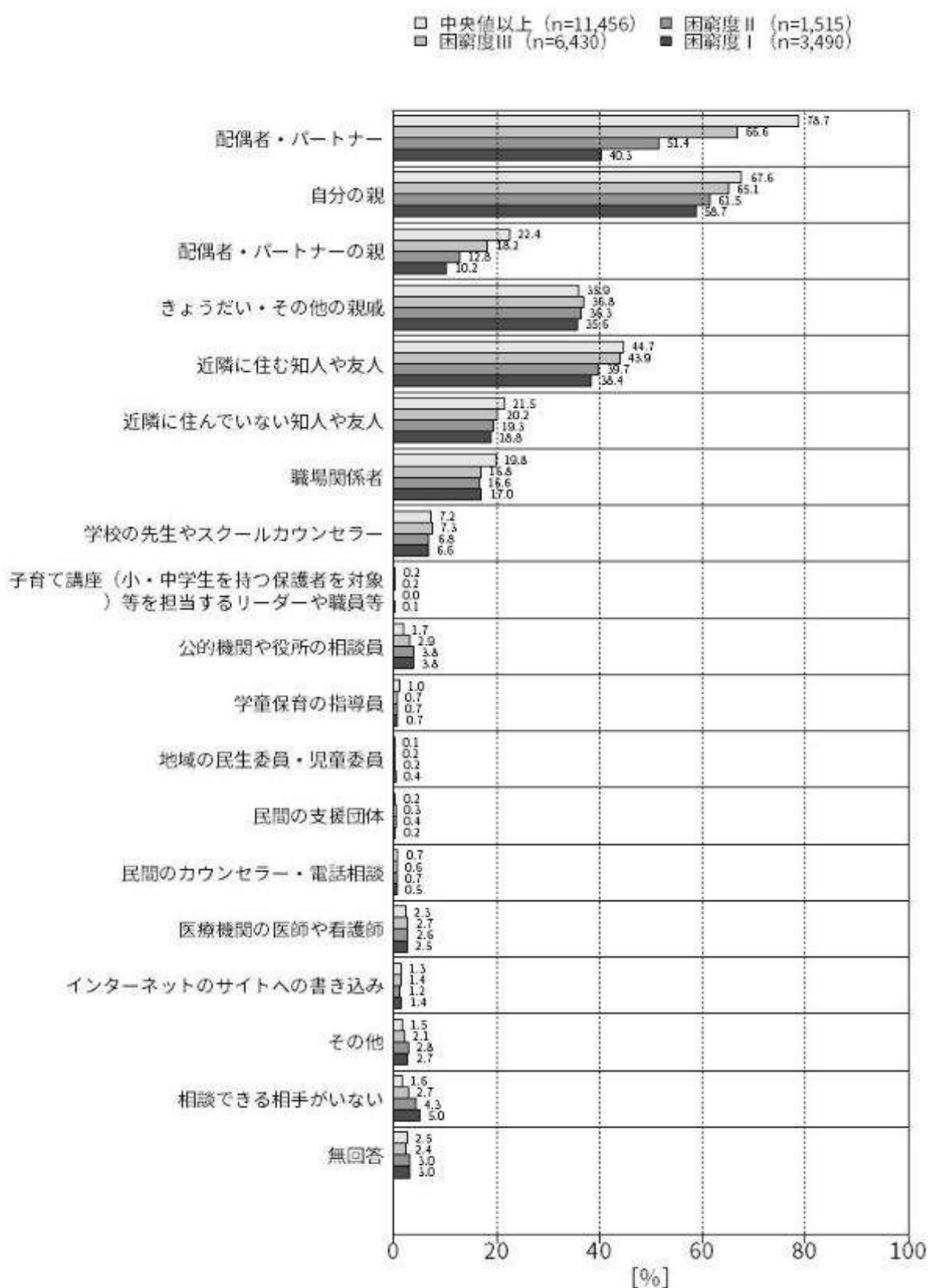


図 289. 困窮度別に見た、嫌なことや悩んでいるときの相談相手

困窮度別に子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「保健室の先生」2.0%（中央値以上群に対して、6.7倍）、「地域の支援団体（学習支援の場や子ども食堂など地域で同じ年ごろの子どもが集まる場所の人）」1%（3.3倍）、「だれにも相談できない」5.1%（2.8倍）が高かった。

困窮度別に見た、困ったときの相談先（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



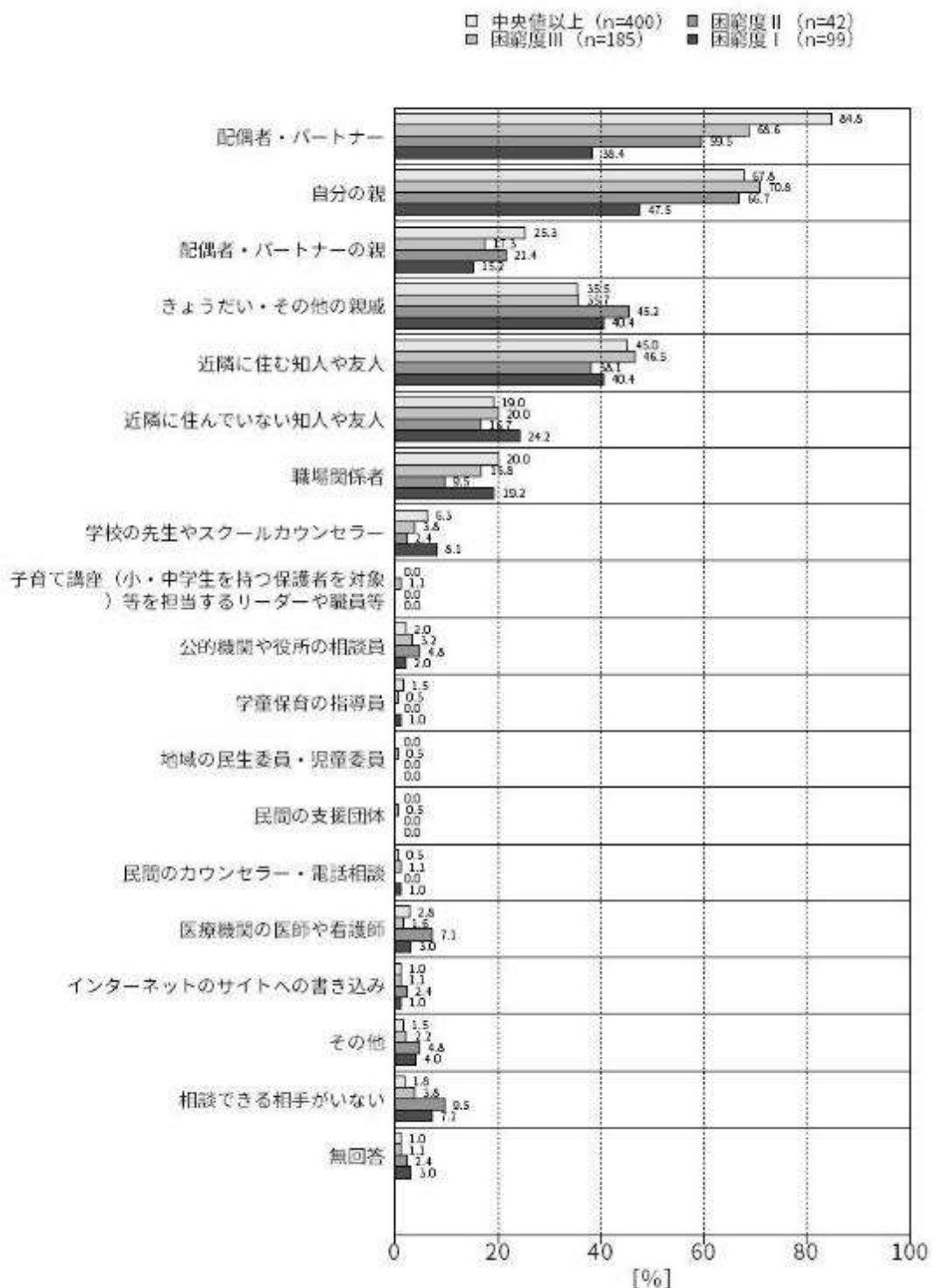
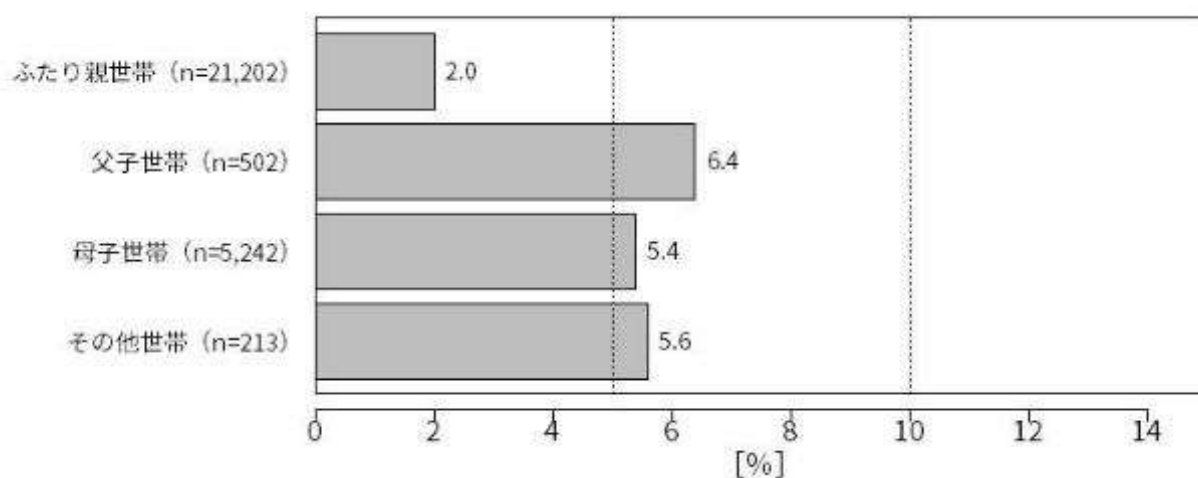


図 290. 困窮度別に見た、困ったときの相談先

困窮度別に保護者の困ったときの相談先を見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「相談できる相手がいない」7.1%（中央値以上群に対して、3.9倍）、「その他」4.0%（2.7倍）、「民間のカウンセラー・電話相談」1.0%（2.0倍）が高かった。さらに、中央値以上群では「配偶者・パートナー」と回答した割合が84.8%だったのに対して、困窮度Ⅰ群では38.4%だった。

世帯構成別に見た、相談相手のいない割合（保護者票 問 24）

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

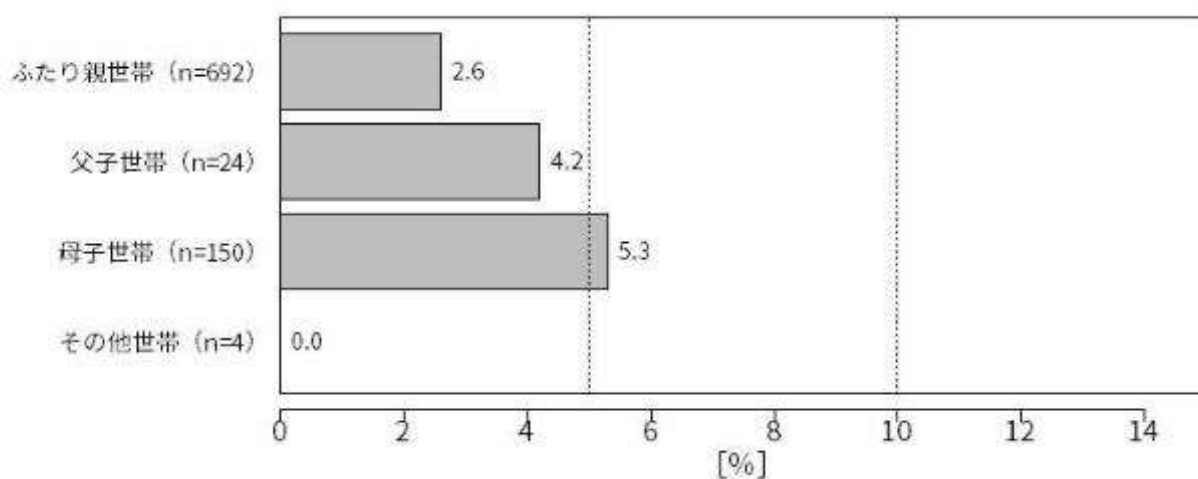


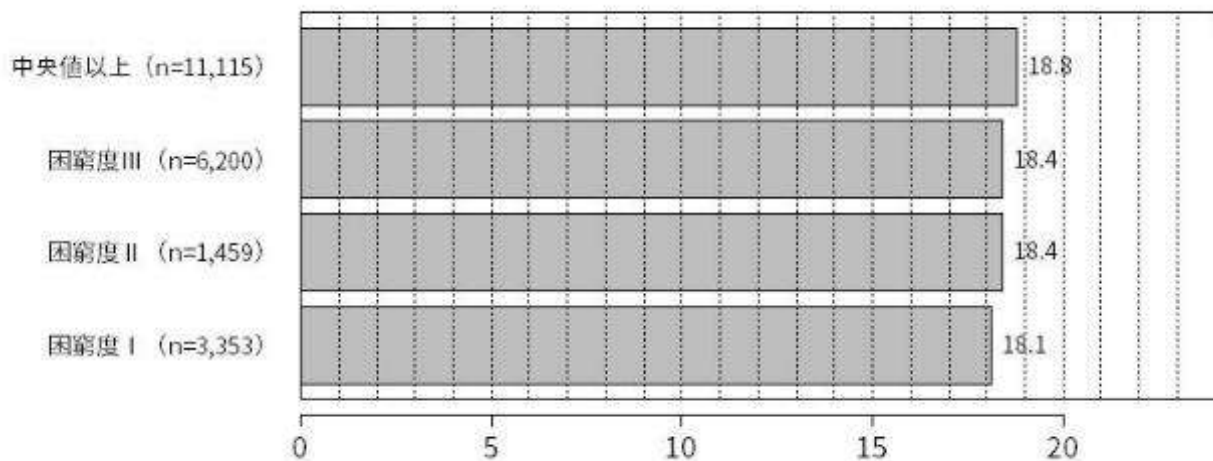
図 291. 世帯構成別に見た、相談相手のいない割合

世帯構成別に保護者の困ったときの相談先を見ると、「相談相手がいない」と回答した人は、ふたり親世帯で 2.6%、父子世帯で 4.2%、母子世帯で 5.3%だった。

困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー（子ども票 問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

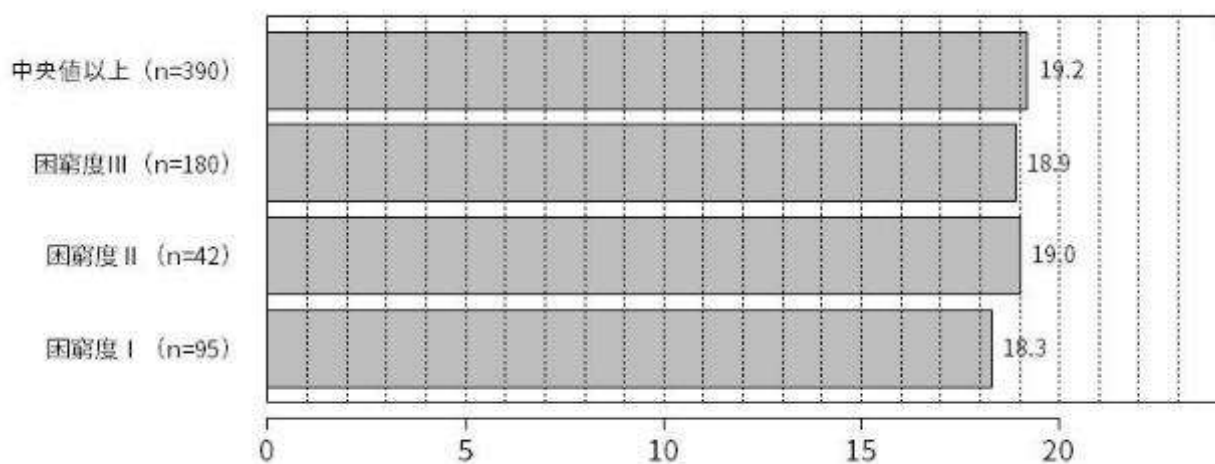


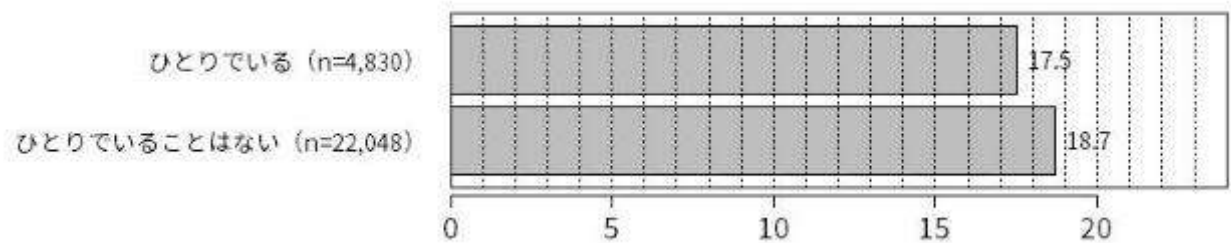
図 292. 困窮度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均値は、中央値以上群で 19.2 点、困窮度Ⅲ群で 18.9 点、困窮度Ⅱ群で 19.0 点、困窮度Ⅰ群で 18.3 点であった。

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー
(子ども票 問 12 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

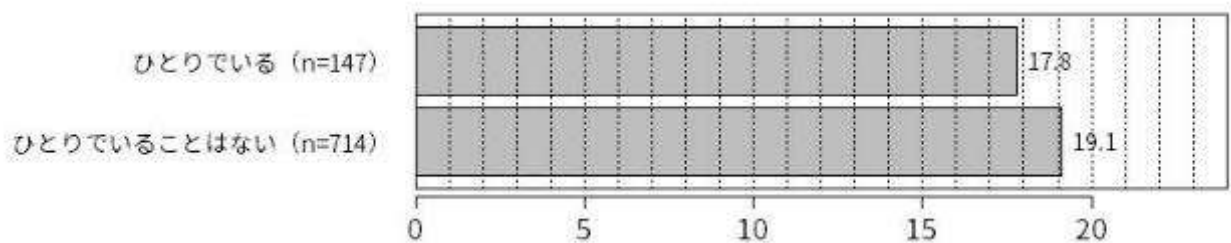


図 293. 子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかと、子どものセルフ・エフィカシー

子どもが放課後ひとりで過ごすかどうかによって子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、放課後ひとりで過ごす子どもの方は 17.8 点、ひとりでいることはない子どもは 19.1 点であった。

困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 22 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

※「あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれかに相談しますか。(だれに話しますか。)」に対し、以下のようにまとめた。

家族・親戚に相談：「親」「きょうだい」「おばあちゃん・おじいちゃん」「おじ・おばなど親戚」

「いとこ」のうち1つ以上に回答した人

ともだちに相談：「学校のともだち」「塾や習い事のともだち」「その他のともだち」のうち1つ以上に回答した人

先生に相談する：「担任の先生や他のクラスの先生」「保健室の先生」「クラブ活動や部活の先生」

のうち1つ以上に回答した人

「スクールカウンセラー」「塾や習いごとの先生」「学童保育、児童いきいき放課後事業の先生」

のうち1つ以上に回答した人

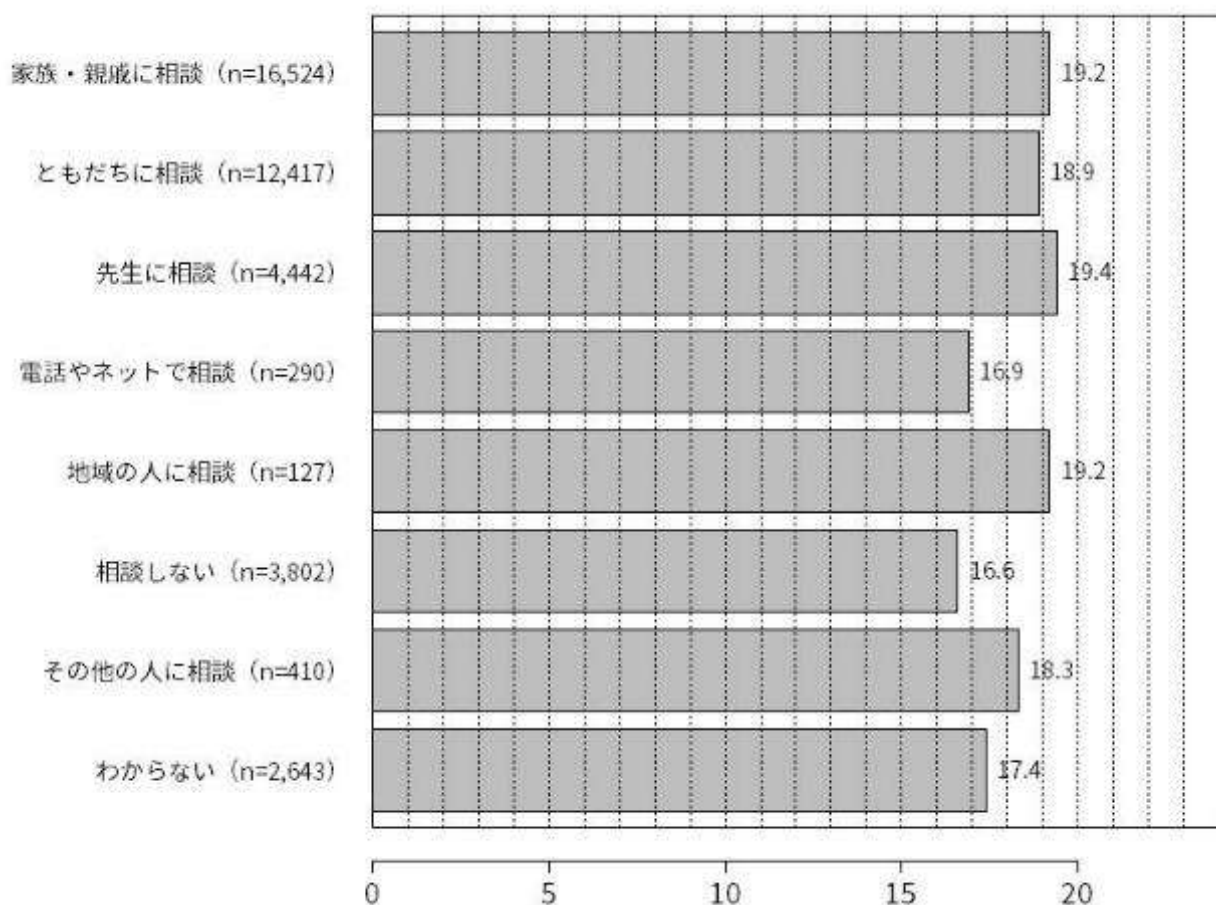
電話やネットで相談する群：「子ども専用の電話相談」「インターネットやサイトを通じて知り合った

直接会ったことのない人」のうち1つ以上に回答した人

地域の人に相談する群：「近所の人」「地域の支援団体」のうち1つ以上に回答した人

相談しない群：「だれにも相談できない」「だれにも相談したくない」のうち1つ以上に回答した人

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

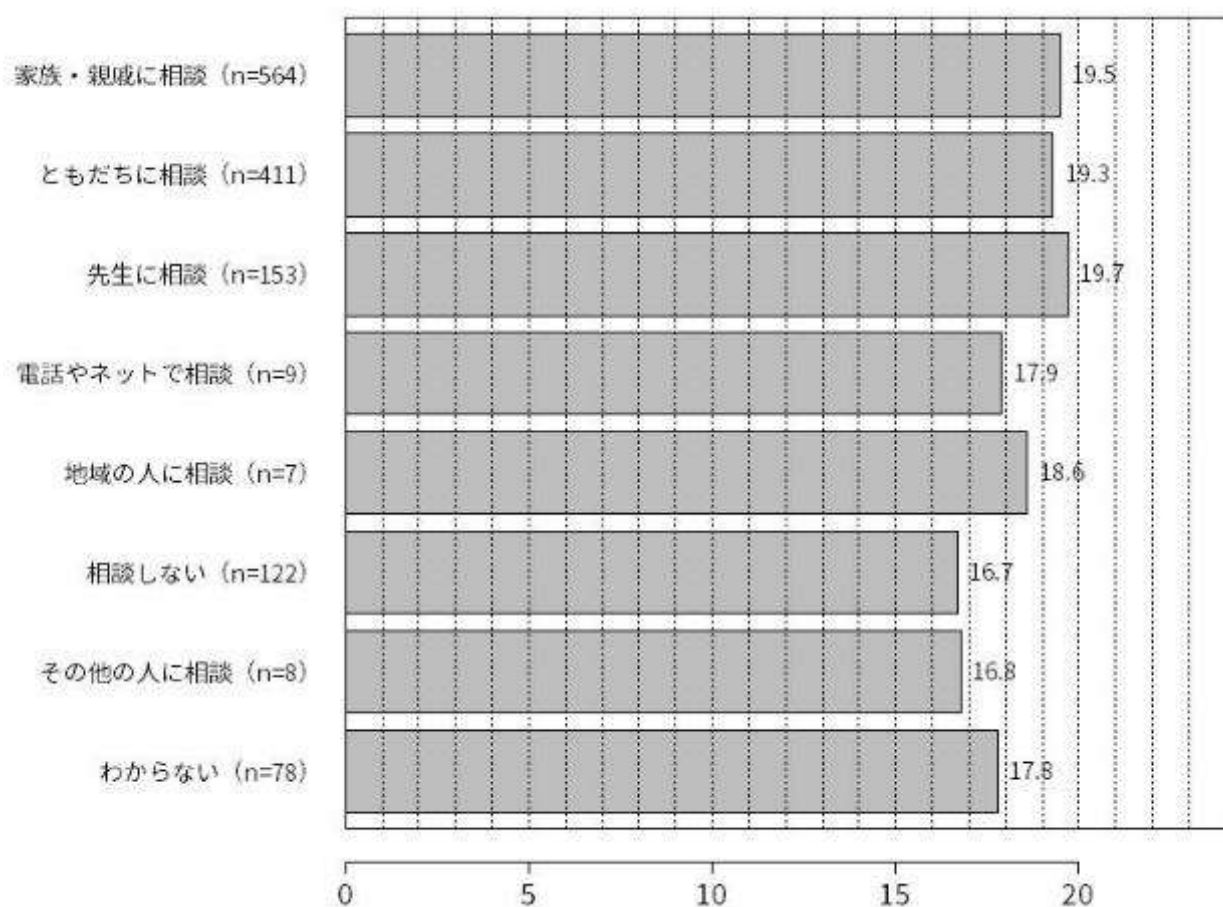


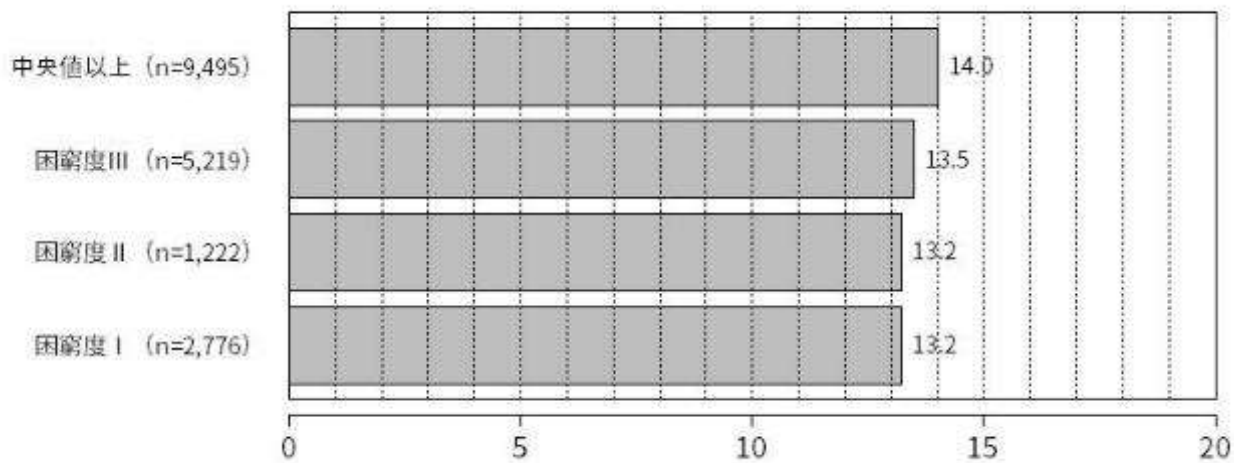
図 294. 困ったときの相談先別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）によって子どもの嫌なことや悩んでいるときの相談相手を見ると、低い順に「相談しない」16.7点、「その他の人に相談」16.8点、「わからない」17.8点であった。

困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※保護者のセルフ・エフィカシーについては図 197 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

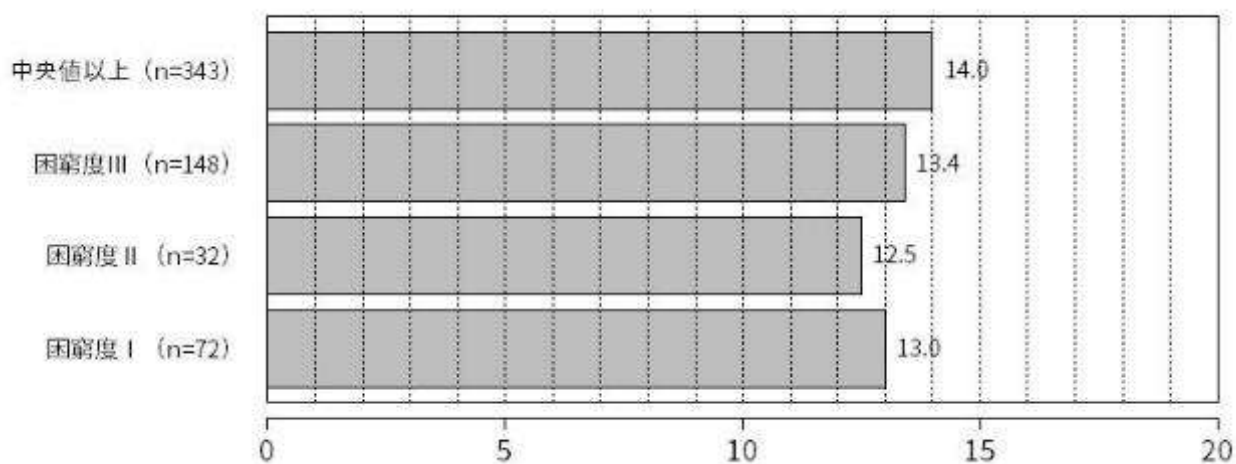


図 295. 困窮度別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

困窮度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、中央値以上群で 14.0 点、困窮度Ⅰ群で 13.0 点であった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10④)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

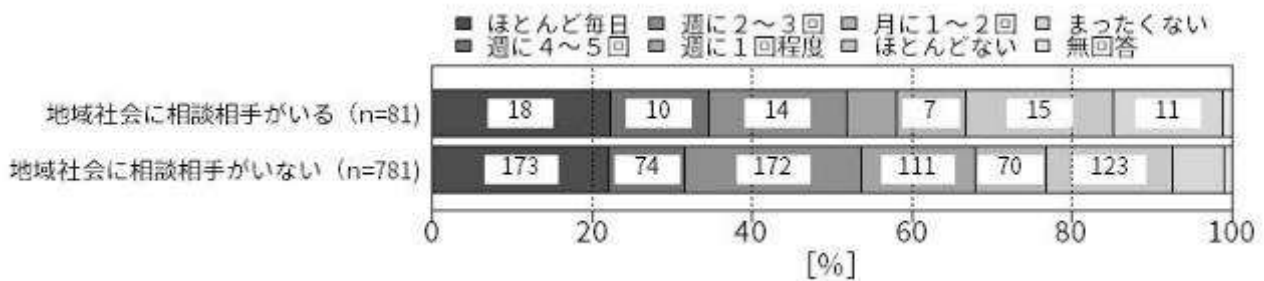


図 296. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか)

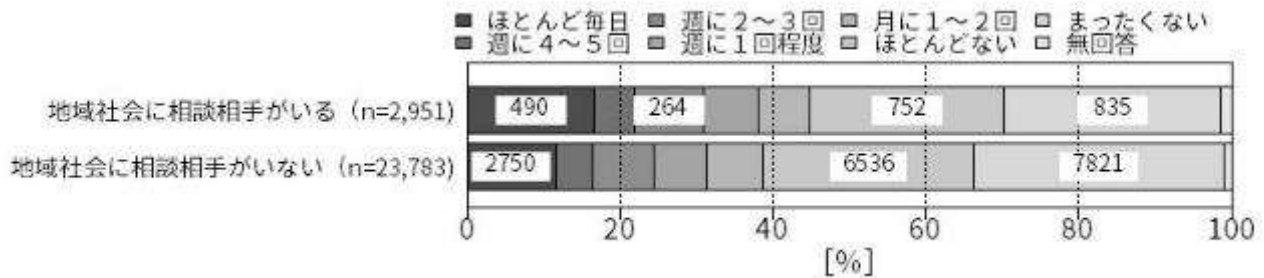
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）を見ると、大きな差は見られなかった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

（おうちの大人に宿題をみてもらうか）（保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑤）

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

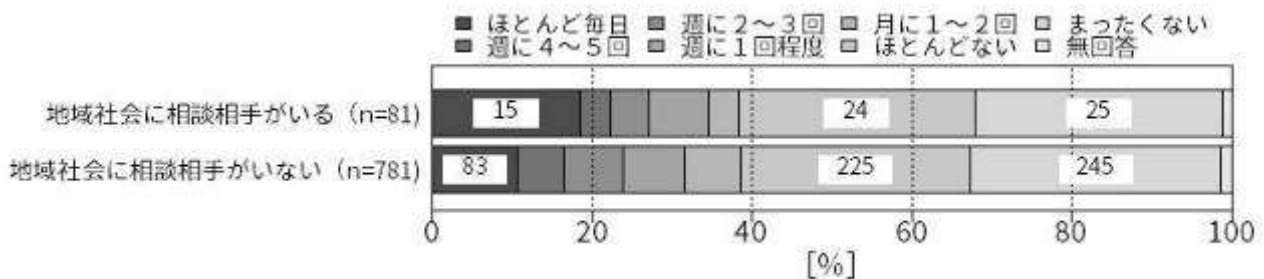


図 297. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

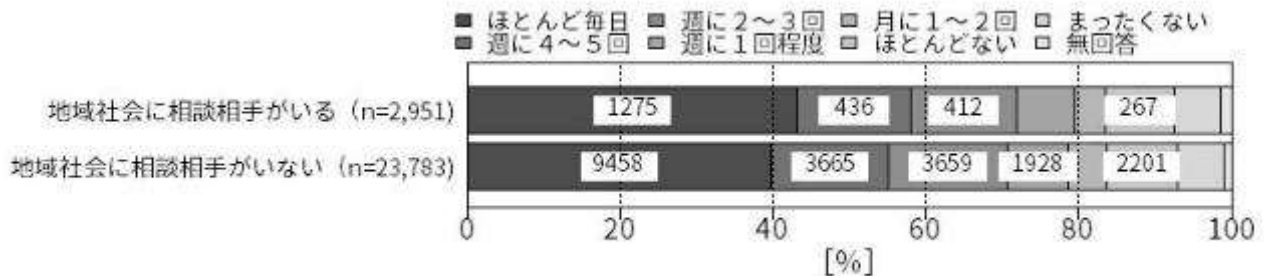
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人に宿題（勉強）を見てもらっている」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と学校の話をするか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑥)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

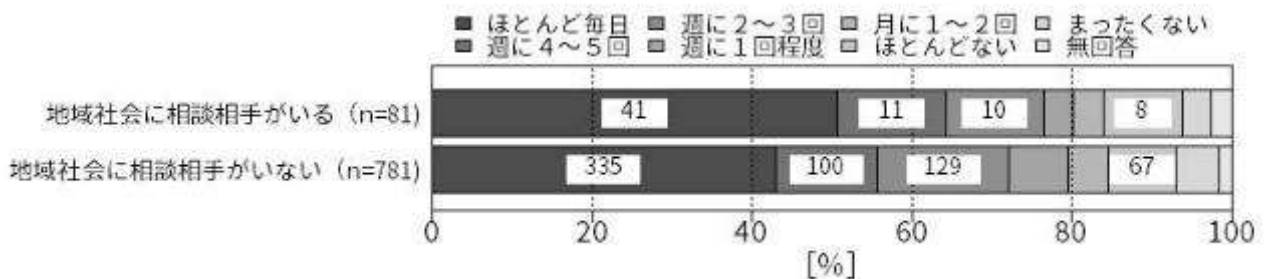


図 298. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と学校の話をするか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人と学校のできごとについて話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑦)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

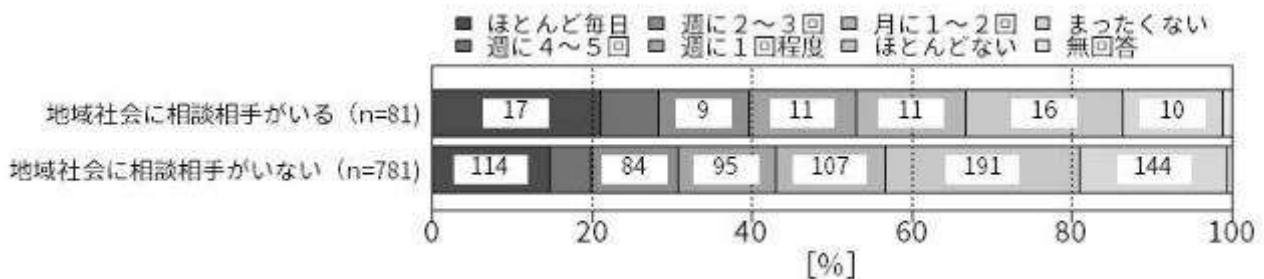


図 299. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と遊んだり、体を動かすか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が「地域社会に相談相手がない」人よりも子どもが「おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりする」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と社会のできごとを話すか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑧)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

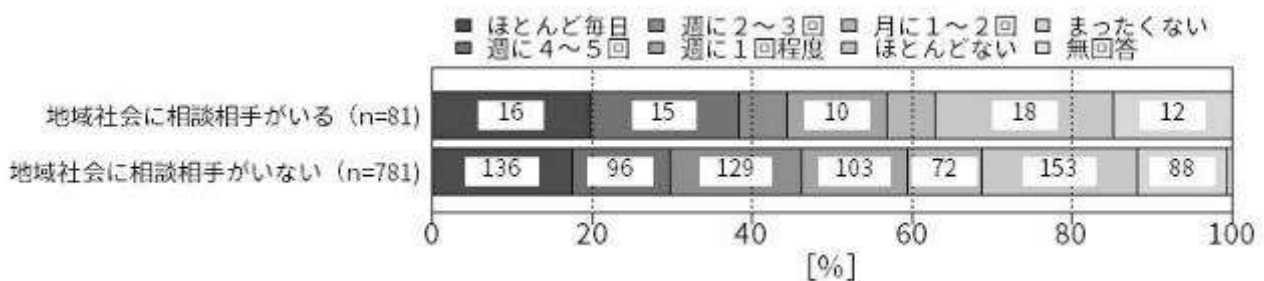


図 300. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と社会のできごとを話すか)

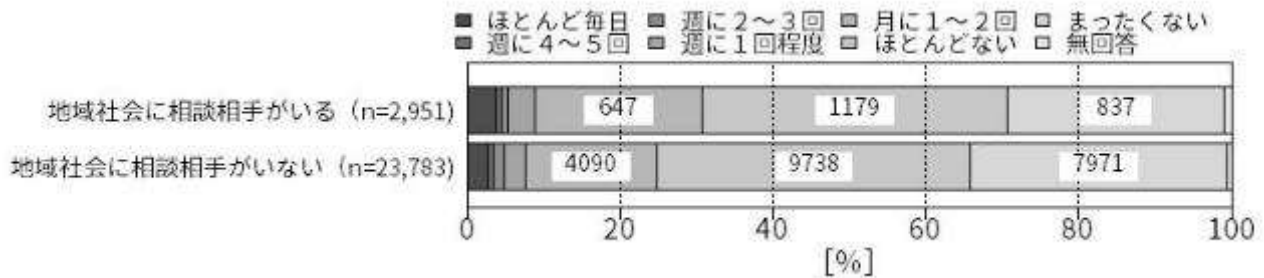
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、子どもが「ニュースなど社会のできごとを話す」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

（おうちの大人と文化活動をするか）（保護者票 問 24 × 子ども票 問 10㉓）

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

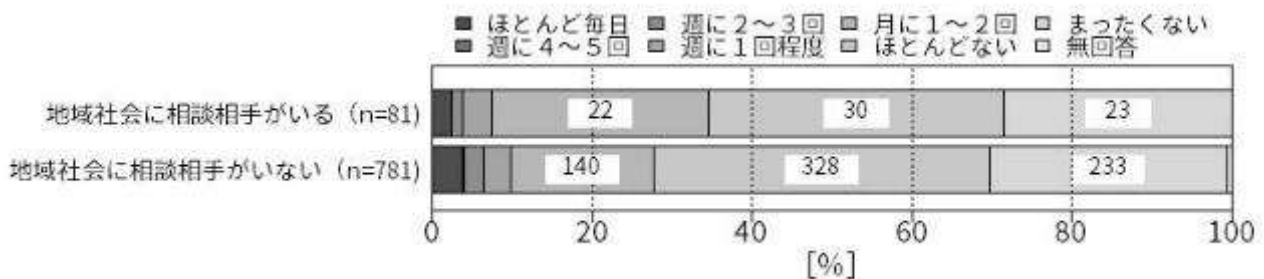


図 301. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）

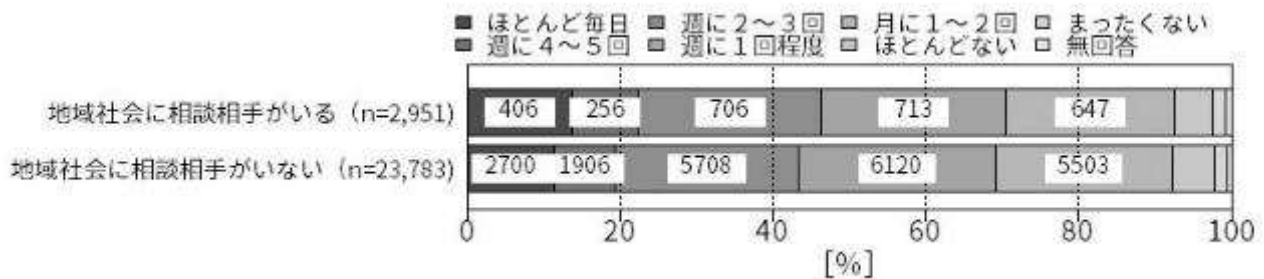
地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）を見ると、「地域社会に相談相手がない」人の方が、「地域社会に相談相手がいる」人よりも、「おうちの大人と文化活動（図書館や美術館、博物館、音楽鑑賞に行くなど）をする」に「まったく」と回答する割合が高かった。

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり

(おうちの大人と一緒に外出するか) (保護者票 問 24 × 子ども票 問 10⑩)

※「地域社会に相談相手がいる」については図 283 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市東成区>

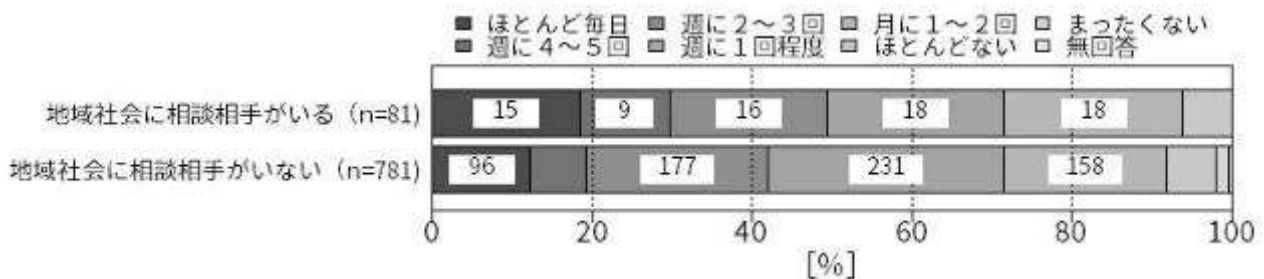


図 302. 地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり
(おうちの大人と一緒に外出するか)

地域社会に相談相手がいるかどうかと、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）を見ると、「地域社会に相談相手がいる」人の方が、「地域社会に相談相手がない」人よりも、「おうちの大人の人と一緒に外出する」に「ほとんど毎日」と回答する割合が高かった。

<対人関係に関する考察>

子ども・保護者の社会的な対人関係について、困窮度や世帯構成などの視点から結果を述べる。子どもが放課後に過ごす場所に関し、困窮度が高まるにつれて「習いごと」「塾」の割合が減少する傾向にあった。一方「スーパーやショッピングモール」「コンビニエンスストア」「ゲームセンター」と答える子どもは、回答数は少ないものの中央値以上群(4.3%)に比べ、困窮度Ⅰ群は増える傾向にあった(9.0%)。

続いて子どもが誰と放課後を過ごすかを見てみると、困窮度の高まりに沿って「おうちの人以外の大人(近所の大人、塾や習いごとの先生など)」「学校のともだち」と回答する子どもの割合が低くなった。

「ひとりでいる」と答えた割合は困窮度を問わず18%前後であったが、一方、自分の子どもが放課後ひとりで過ごしていると考えている保護者は困窮度Ⅱ群を除き2%程度であった。すなわち放課後の過ごし方で保護者の認識と実態とがかい離している状況が確認された。

悩んでいることを困窮度の視点から見ると、困窮度が高まるにつれて「いやなことや悩んでいることはない」と回答する子どもの割合が減る傾向にあり(中央値以上群では40.2%、困窮度Ⅰ群では31.3%)、その一方、「おうちのこと」を回答する割合が増える傾向にあった(中央値以上群では3.3%、困窮度Ⅰ群では17.2%)。同様に「ともだちのこと」「好きな人のこと」も増える傾向にあった。そしてそのいやなこと・悩んでいることを相談する相手として、「だれにも相談したくない」と回答する子どもの割合は困窮度を問わず12%前後であり、さらに「だれにも相談できない」の割合は困窮度の高まりとともに増加する傾向にあった。困窮により嫌な事や悩みを抱えたまま生活することを強いて、精神的な衛生状態に影響を与えていることが推測される。

保護者の相談相手や相談先においては、困窮度が高まるにつれて「配偶者・パートナー」「自分の親」と回答する割合が減少し、「相談できる相手がいない」と回答する割合が増加する傾向にあった(中央値以上群では1.8%、困窮度Ⅰ群では7.1%)。また世帯種別に関しては、父子世帯、母子世帯ともに「相談できる相手がいない」と回答する割合がふたり親世帯よりも高かった。一口にひとり親世帯といえども父子世帯と母子世帯とでは生活圈・生活環境が異なるため、それぞれに適した支援を行っていく必要があると推測される。

地域社会に相談相手がいる場合はいない場合に比べて、家の手伝い、おうちの大人に宿題を見てもらう、学校のできごとを話すなどの割合が高かった。

B. 5歳児保護者調査報告書

1. 回答者の属性

5歳児-1 続柄

問1 この調査に回答いただいている方におたずねします。お子さんとあなたの続柄について教えてください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市東成区では、「お母さん」が85.1%、「お父さん」が3.1%、「おばあさん・おじいさん」が0.3%、「おじ、おばなど親戚」が0.3%、「施設職員・ファミリーホーム・里親」が該当なし、「その他の人」が該当なし、「無回答」が11.3%であった。

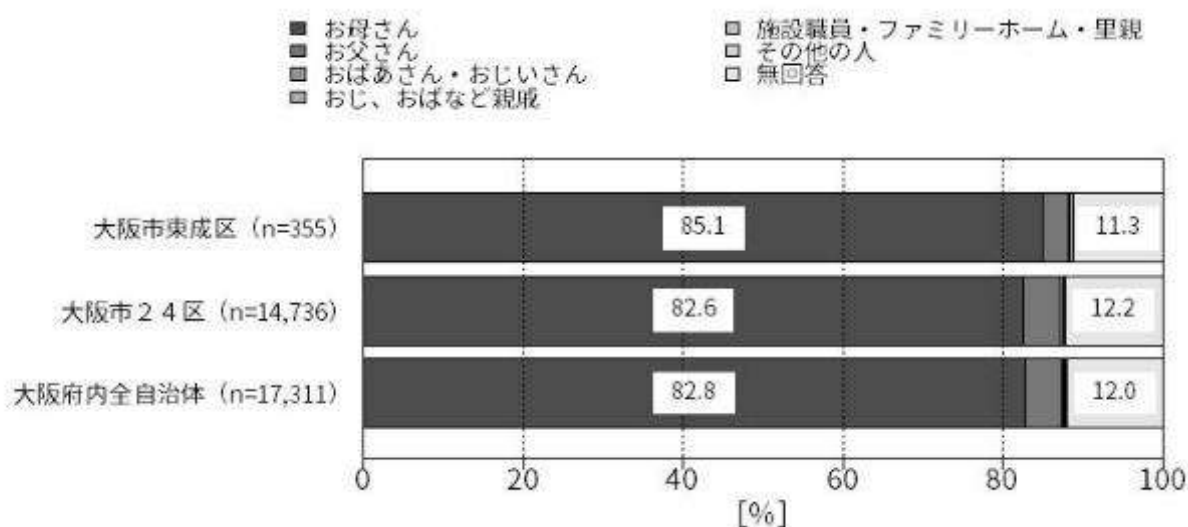


図 1. 回答者の続柄

2. 単純集計

(1) 経済状況

5歳児-41-4 世帯収入額

(4) 前年(2015年)のあなたの世帯の収入の合計額は、およそいくらでしたか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

大阪市東成区では、「500～550万円未満」が9.9%、「300～350万円未満」が8.2%、「350～400万円未満」が7.9%、「550～600万円未満」が7.6%、「250～300万円未満」が7.3%の順に高くなっている。(グラフは大阪市24区・大阪府内全体のもののみ)

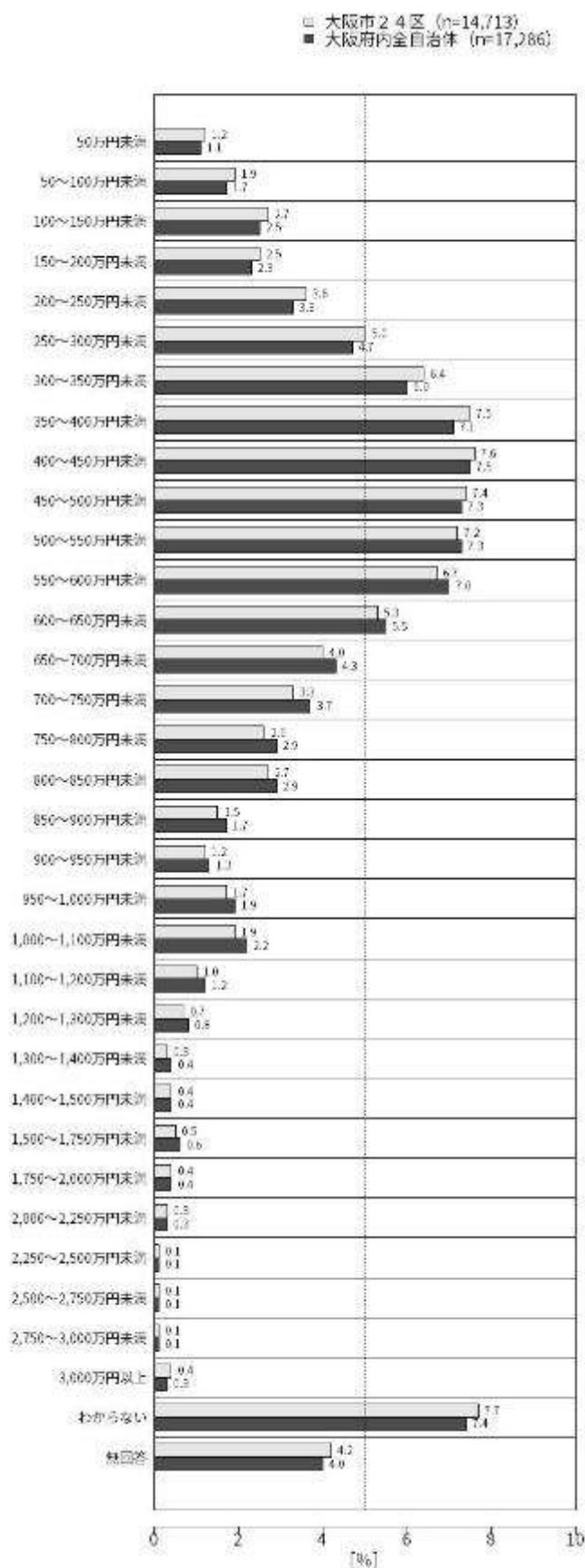


図 2. 世帯収入額

等価可処分所得に基づく困窮度の分類

表 1. 大阪市5歳児保護者困窮度別人数

困窮度分類	人数	%
中央値以上	6657	52.5
困窮度Ⅲ	3749	29.6
困窮度Ⅱ	774	6.1
困窮度Ⅰ	1500	11.8
合計	12680	100.0

5 歳児-6 経済的な理由による経験

問6 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。おおむね半年の間でお考えください。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

大阪市東成区では、「趣味やレジャーの出費を減らした」が47.3%、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」が45.9%、「食費を切りつめた」が38.6%、「理髪店・美容院に行く回数を減らした」が35.2%、「友人・知人との外食を控えた」が30.4%の順に高く、「1～21の項目には、どれにもあてはまらない」が25.9%になっている。

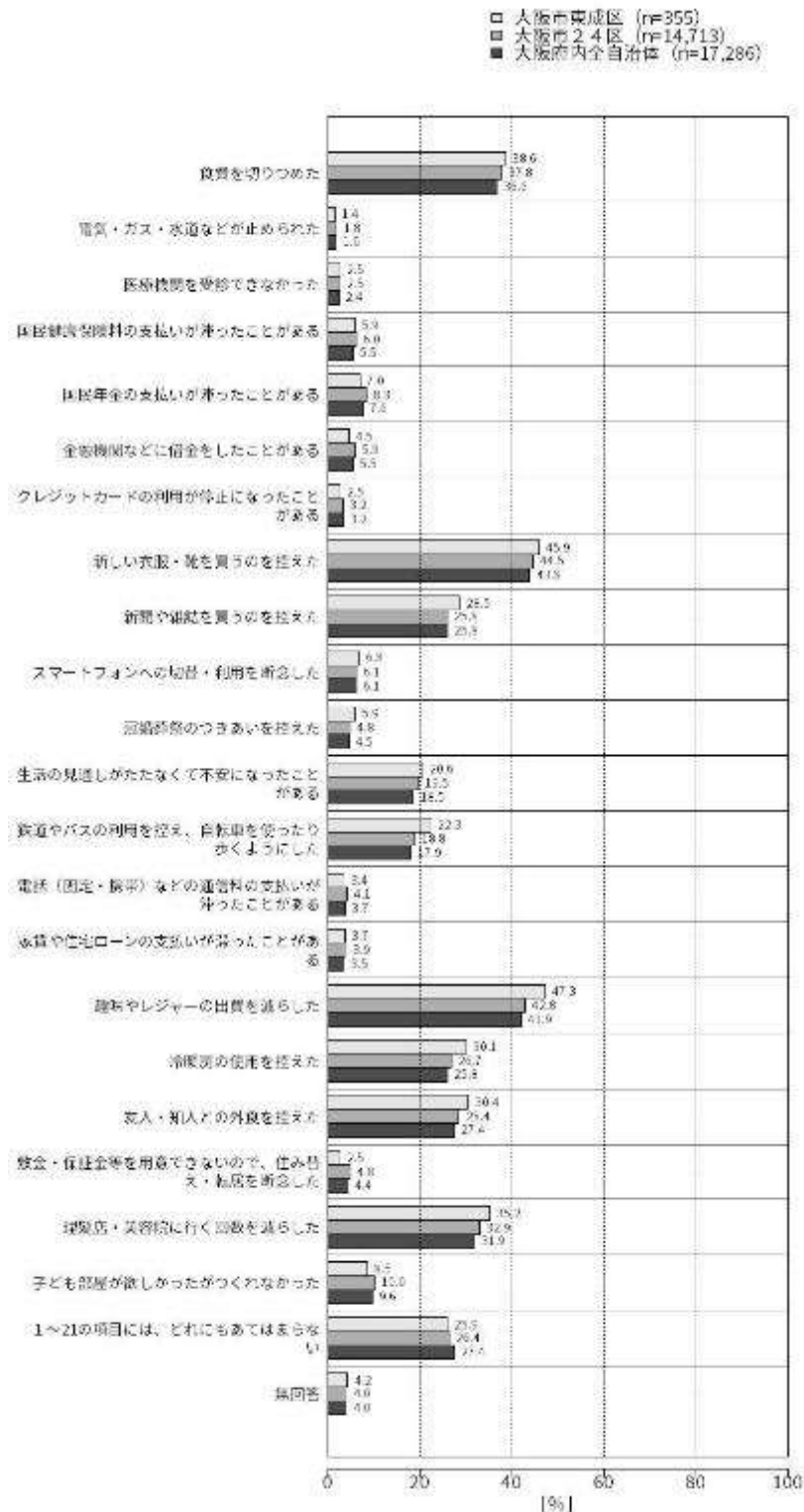


図 3. 経済的な理由による経験

5 歳児-29 経済的な理由による経験

問 29 あなたの世帯では、経済的な理由で、次のような経験をされたことがありますか。

(おおむね 1 年の間でお考えください。あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

大阪市東成区では、「1～13 の項目には、どれにもあてはまらない」が 67.6%、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」が 16.3%、「子どもを習い事に通わせることができなかった」が 13.2%、「無回答」が 8.7%、「子どもに新しい服や靴を買いできなかった」が 7.9% の順に高くなっている。

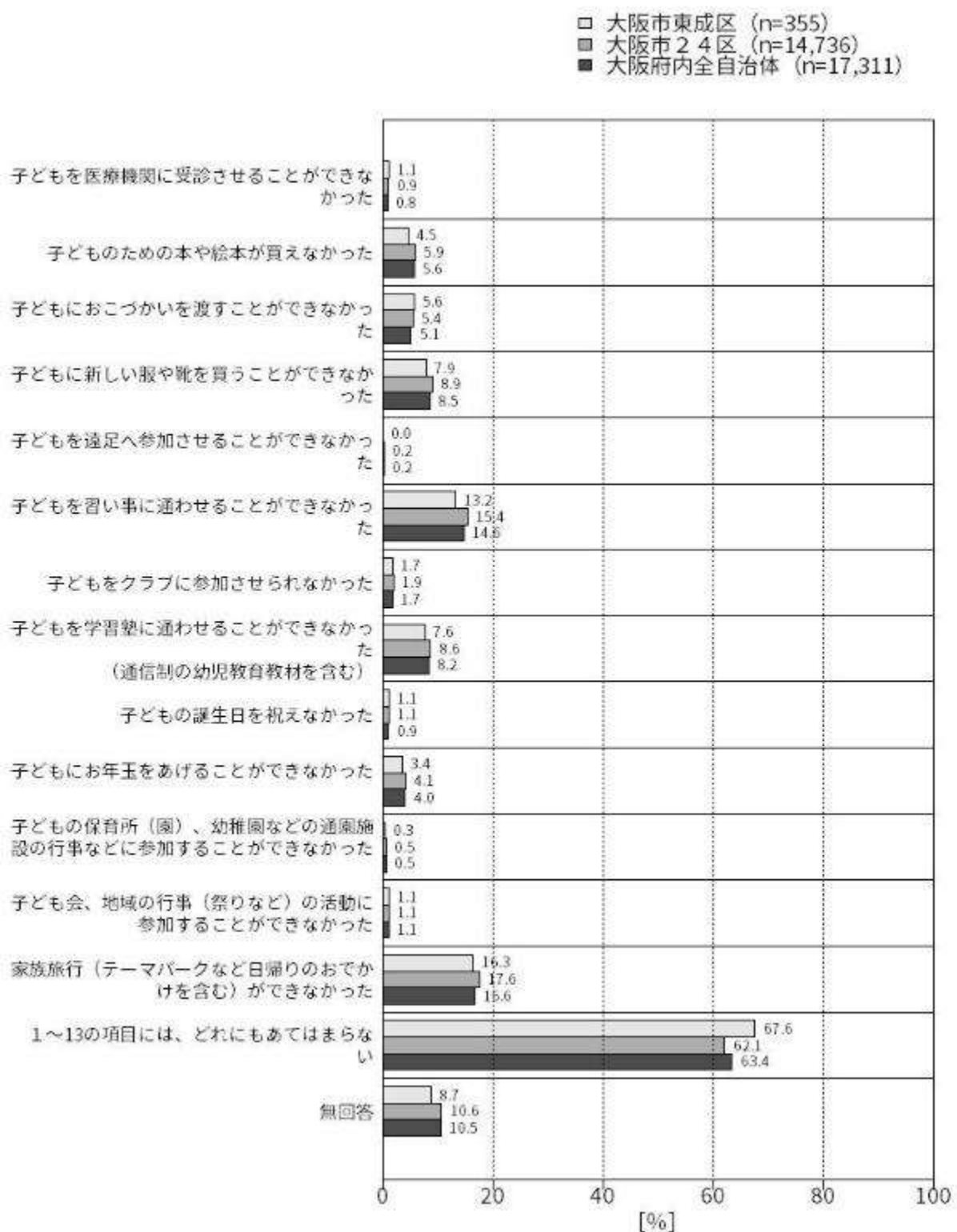


図 4. 子どもへの経済的な理由による経験

5 歳児-5-1 家計状況

問 5 (1) 前年 (2015 年) の 1 年間のあなたの家計の状況について、あてはまる番号 1 つに○をつけてください

大阪市東成区では、「貯蓄ができています」が 33.8%、「赤字でもなく黒字でもない」が 35.2%、「赤字である」が 25.4%、「わからない」が 4.5%、「無回答」が 1.1%であった。

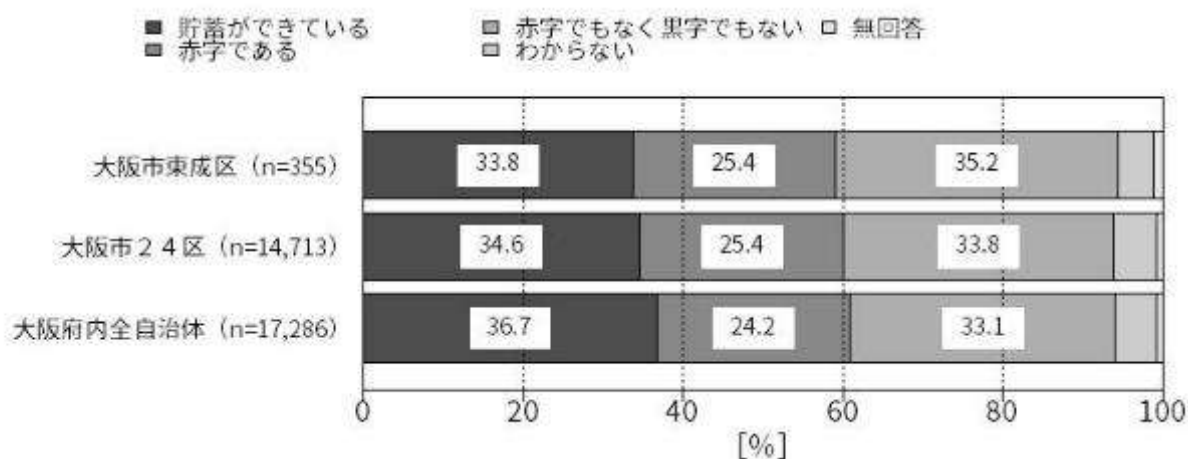


図 5. 家計状況

5 歳児-5-2 赤字の場合の対処

問 5 (2) 問 5 (1) で「2. 赤字である」と答えた方におたずねします。赤字の場合はどのようにしていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

大阪市東成区では、「貯金、預金のとりくずし」が 74.4%、「親や親族などからの仕送り」が 5.6%、「金融機関等からの借入」が 8.9%、「その他」が 11.1%、「無回答」が該当なしである。

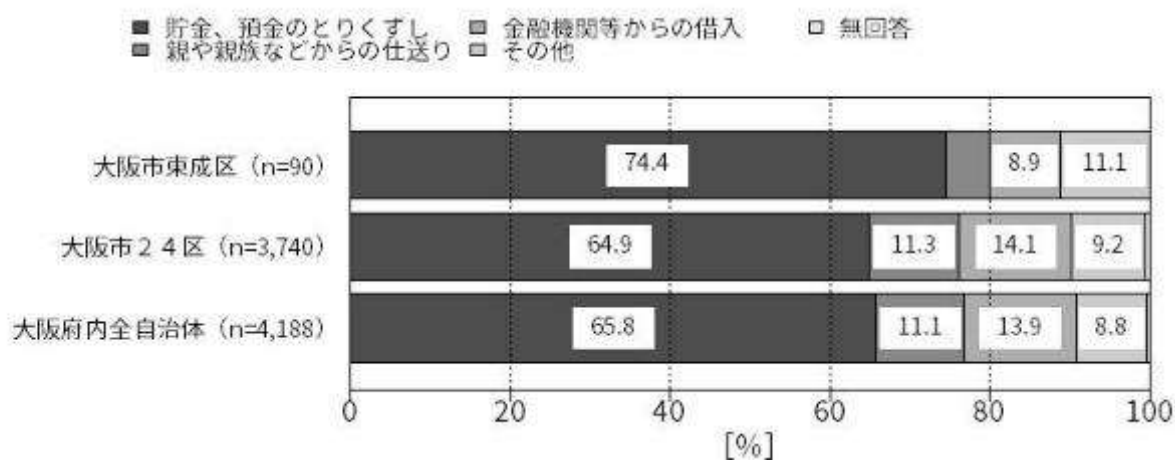


図 6. 赤字の場合の対処

5 歳児-5-3 子どもの貯蓄

問 5 (3) お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

大阪市東成区では、「貯蓄をしている」が 62.0%、「貯蓄をしたいが、できていない」が 36.6%、「貯蓄をするつもりはない」が 0.3%、「無回答」が 1.1%であった。

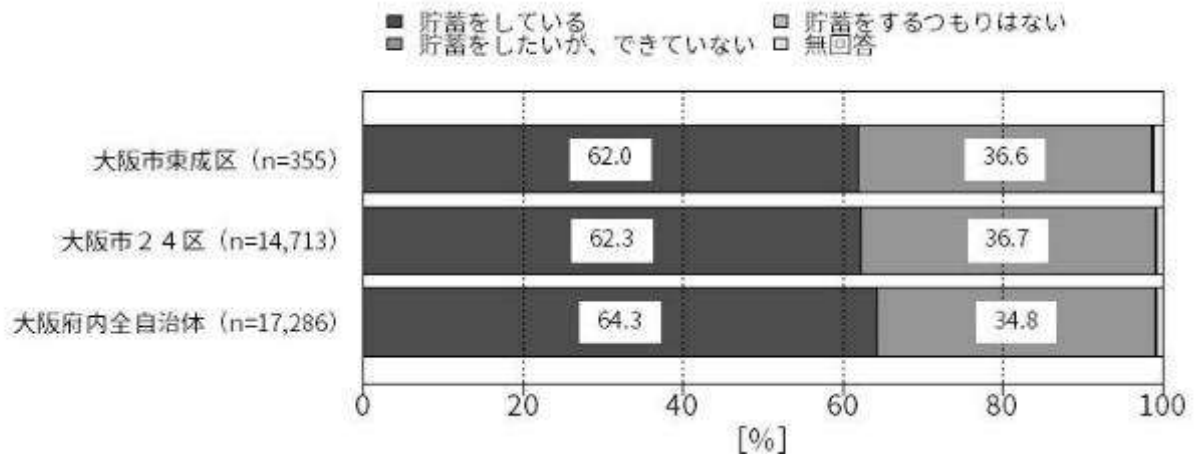


図 7. 子どもの貯蓄

5 歳児-41-3-1 児童手当

問 41 (3) ① 児童手当

大阪市東成区では、「受けている」が 86.8%、「受けたことがある」が 1.7%、「受けたことはない」が 2.0%、「無回答」が 9.6%であった。

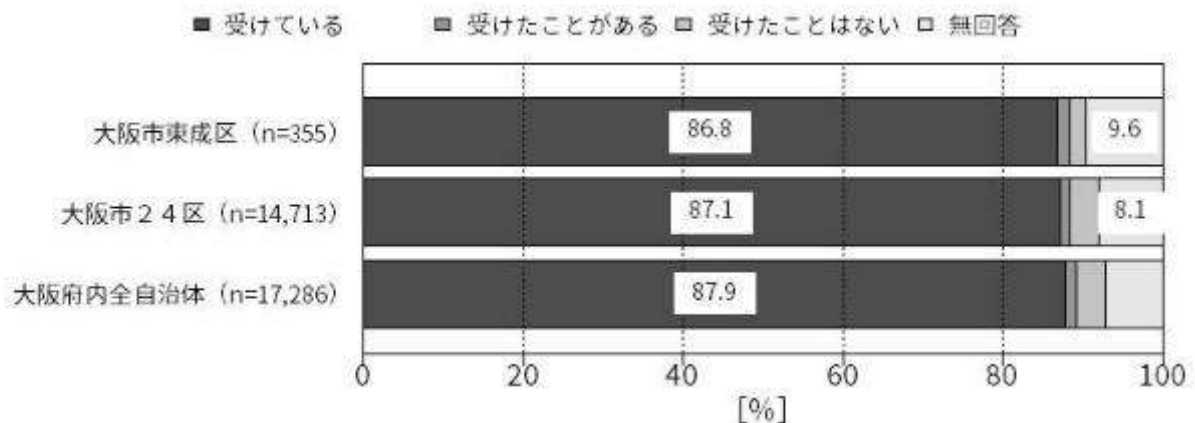


図 8. 児童手当